

宮崎「橋の日」  
10周年記念誌



平成9年6月  
宮崎「橋の日」実行委員会

# **宮崎「橋の日」10周年記念誌**

**宮崎「橋の日」実行委員会**



# 宮崎橋の日10周年を迎えて

昭和62年8月4日第1回の宮崎橋の日をスタートさせてここに10周年という一つの節目を迎え、その足跡の一端をたどる10周年のあゆみが多くの方々のご協力を得て発刊できましたことは大きな喜びであります。

そして発足当時からすると、この橋の趣旨が地道ではありますが県内に浸透し、その輪が着実に広がりつつありますことを大変心強く思っております。

顧みますと、大変な暑さの中で、また雨の日、風の日などもありましたがそれを押してボランティアで参加くださいました高校生をはじめボーイスカウト、ガールスカウト、産業開発青年隊業界の皆様方などの温かいご協力に支えられてこの10年、欠かすことなく橋の日の行事を続けて参りました。

私はこの橋の日が参加された方々の全て手作りの行事であるところに大きな特長があると思っています。

その意味でなんでも挑戦、みんなが参加の新ひむかづくり運動と全く軌を一にするものであります。

本県には多くの河川があり、そこには大変特長のある橋がいくつもございます。

そして川や橋への人々の接し方も時代とともに変わっているように思います。それは洪水を防ぐための川だけでなく、川に生息する生き物への配慮や川や橋から眺める風情といった安らぎの空間としての思いが強くなっています。

橋に日頃の感謝の気持ちを寄せながら、また橋は人や物が渡るだけの単なる道の一部ではないそんな思いを重ねながら宮崎橋の日はスタートいたしました。

ここに10周年を記念して、これまでのあゆみをまとめることができましたが、この小冊子が橋の日の運動のさらなる発展の一助になれば大変幸いに存じます。

宮崎橋の日実行委員会  
会長 塩見一郎

## 目 次

1, 橋の日設立の趣旨・理念	01
2, 会員エッセイ	04
忘れられぬ橋	藤本 廣
曾祖父を偲ぶ	福島 順一
橋の日イベントの思い出	横山 忠夫
全国に広げよう橋の日を	湯浅 利彦
橋についてのこぼれ話	生野 敏明
橋とまちづくり	徳 末道
「名橋・旧橋橋はなぜ架け替られたのか」	宮崎主税
3, 橋の日座談会総括	11
4, 宮崎の橋	17
5, 宮崎の石橋	22
6, 活動のあゆみ	30
7, 初代橋橋と福島邦成	32
8, 報道にみる橋の日	45
9, 活動写真集	59
10, 参考資料（橋の日シンボルマーク・「橋の日」の歌・朝まだき）	67
11, 実行委員会名簿・協力団体及び企業一覧	74

## 橋の日設立の趣旨・理念

橋の日が来る度に思い出されるのが、最初に橋の日設立推進運動に取り組んだ時の事である。

宮崎市での橋の日の設立の取り組みは、今から10年前の昭和62年であった。

県都宮崎市を中心に、全国に橋の日制定の運動を起こそうと考え、数人の仲間が集ったのが、この日の出発であった。

この年、宮崎市教育委員会では、「きれいにしよう大淀川」という、市のスローガンのもと、大淀川教育課程の実践の取り組みが始まった時でもあった。橋の日の設立が、大淀川教育課程の推進の一助にもなればということもあって、設立の趣旨を次の様に設定した。

- (1) 8月4日（ハシ）を「橋の日」の日とし、「新ひむかづくり運動」の一環として、郷土の心のイベントとする。
- (2) 「橋の日」＝8月4日の話題性を生かし、市民の橋や河川との触れ合いの日とする。
- (3) 太陽と緑の都市「宮崎」の顔である「大淀川」は、宮崎市民運動により浄化が推進されつつあり、その河川の歴史性・文化性を有している橋の恩恵に感謝する。
- (4) 河川と橋とのふれあいによる郷愛心の高揚と河川の愛護・浄化への関心を育てる。
- (5) 橋と河川を通じて人間のコミュニケーション、ふれあいの場、交流の輪の拡大を図る。
- (6) 回を重ね、全国8月4日の橋の日の運動の基盤とする。  
　　という趣旨を掲げ、みんなでつくろう橋の日提唱運動の歩みの第一歩としたのです。

さらに、「みんなでひろげよう橋の日」を合ことばとして、

- ・ 郷土のシンボルである河川と橋との触れ合いの日としよう
- ・ 河川と橋を通じて、人々のコミュニケーション・ふれあいの場としよう。
- ・ 郷愛心の高揚と河川の愛護・浄化への関心を育てよう。
- ・ 8月4日（ハシ）を橋の日とし郷土の心のイベントとしよう。

この4つの目標をもって、県が進められている新ひむかづくり運動の一環としてとらえ、広く全国にアピールする布石にしたいと願って運動を展開してきたのです。

川と共に生きる私達にとって、橋は、日常生活上欠くことのできないものです。「心の掛け橋、愛の掛け橋、文化の掛け橋」などのことばがありますとおり、みんなで、この橋の日を盛り上げたいと頑張っている。

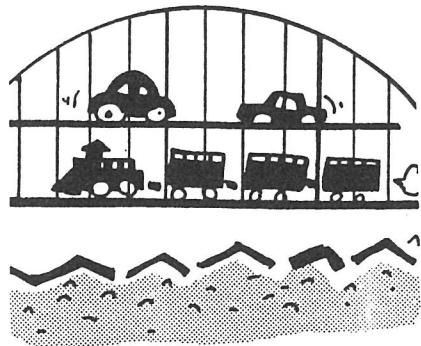
副会長 横山 忠夫



## 会員エッセイ集

---

会員の皆さんから、10周年を迎えての橋への想いを7名の方に、エッセイ風に語っていただきました。



# 忘れられぬ橋

ヨーロッパの町や田舎を歩きますと、名も知れぬ小さな橋のたもとや橋の高欄の中ほどに、素朴な木彫りや石彫りのマリヤ像や十字架などが建立されている橋に出会うことがよくあります。中世のヨーロッパでは、ローマ・カトリック教会が冤罪符を売ったお金で造った橋が多かったそうで、そんな橋には、たいてい「神の加護によって悪魔の邪魔に打ち勝ってこの橋が造られた」といった伝説があり、橋が両岸の住民の心の絆となっています。

私は土木工学が専門であるために、これまでに歩いてきた国内外の目についた橋は殆どスライドに撮影していますが、橋梁技術史上著名な橋は別にして、上記のような橋の方に却って忘れられぬ思い出があります。その中の一つに、曾てのユーゴスラヴィア連邦から独立したスロヴェニア共和国の首都リュブリヤナから、オーストリア・アルプスに向かって車で半時間程走ったスコフィア・ローカという古い田舎町の入口の谷川に架かっていた石造アーチ橋があります。

その橋は、写真で見られるように、ほど三分ノ二円1径間の石造アーチ橋で、その高欄の中央に、幼いクリストを抱いた石彫りのマリア像が立っていました。14年前に、私をその町に案内し

てくれたリュブリヤナ大学の友人の説明によりますと、その橋にも、昔、神の加護によって建造されたという伝説があり、その付近の住民の神聖な場として大事にされてきたとのことでありますが、中世のあの“魔女狩り”的時代には、その橋上から魔女と疑われた女性が川に投げ込まれて、浮けば魔女、沈めば魔女ではない、と判定されたそうであります。魔女と判定されれば勿論死罪となりますし、沈んで浮き上がらなければ溺れる訳ですから、結局、疑われた者は全て死んだことになります。そんな、悲惨な歴史のある橋ですが、それから7年後に家内を連れて再びその町を訪ねたときも、その橋は変わらず、周辺の古い石造りの建物と一体となって、過去にそんな悲しい出来事があったとは到底思えない位、静かな落ち着いた美しい景観を見せてくださいました。

その一方で、最近ようやく平和を取り戻しつつある旧ユーゴスラヴィア紛争の場、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの古都モスタルの中を流れるネレトヴァ川に架かる16世紀初頭の石造アーチ橋が、この紛争の砲撃で無残に破壊されてしまっているとのことです。この橋は、“ネレトヴァの戦い”という第二次大戦中のナチス・ドイツに対する、旧ユーゴスラヴィアの故チト一大統領を指導者としたレジスタンスを描いた有名な映画にも出てきますが、トルコ人の手によるイスラム様式のアーチの美しい橋がありました。近い将来にでも、この橋が復元されることがあれば、もう一度ユーゴスラヴィアを訪ねたいと思っている昨今であります。

相談役 藤本廣  
(宮崎大学名誉教授)



# 曾祖父を偲ぶ

福島邦成は、（一八一九年）太田村（現中村西一丁目）に生まれ、一七才から昌平塾に學び、蘭學、西洋醫學、藥學を修め、後に延岡藩の待医を務めた。

歸郷後、明治四年に居宅の近くに宮崎病院（現善栖寺境内）を設立した。

近くに流れる大淀川の渡し舟が増水の度に運休するのを眺めて、江戸を知る邦成は、著しく不便を感じていたに違いない。

対岸の患者は、来院できず自らは住診できない等を含めて、商人も困った筈である。

明治五年頃から、橋を目録み再三県に架橋申請を行ったが、許可が下りず、明治十三年によく許可をえた。

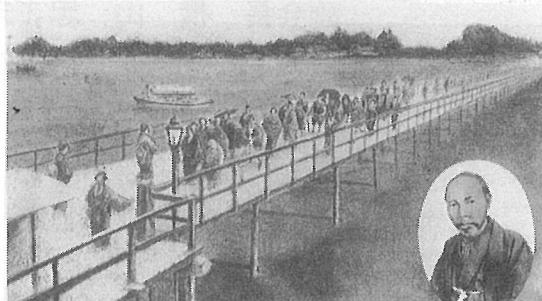
同年二月私財千七百円を投じ、木橋（長さ三八二米幅三、六米）を完成、四月開通式を舉行した。邦成は雅号を退庵、橋南、赤洲等を名乗っていたが、その中から一字をとり、橋橋と銘名した。宮崎で最初の賃取橋である。

場所は、上野町通りと、善栖寺正門前を結んだ線上で現在の橋より上流にあった。

没後は、医師としてよりも、橋橋の創設者としての方が知られるようになり、観光バスで紹介され、又、北詰の黒御影石の橋碑に刻名され、郷土史にも語られている。

平成十年（一九九八年一月二十日）は邦成の没後百周年であり、宮崎の歴史の一駒として紹介させていただいた。

（曾孫 福島順一記）



福島邦成と架設された橋橋(明治13年)

# 橋の日イベントの想い出

橋の日提唱運動に取り組んで10年が経過した。ふりかえってみると、私が小戸小学校を最後に退職した年であった。

「8月4日＝橋の日」の提案者の湯浅利彦さんから、橋の日提唱の相談があり、自ら考えたこともあって、その話を受け入れ、昭和62年8月4日、橋の日実行委員長として、第1回のイベントを実施した。小戸小の先生方や子供達の応援をいたいたことはいまも忘れられない。また、その時の行事内容は現在と比べものにならない位、ほそぼそとしたものでした。近隣の市民の方々の協力を得て、関連行事を推進することができた。

その当時の行事内容を列記してみると、午前7時30分に市民会館噴水広場集合。委員長あいさつ。来賓あいさつ。ラジオ体操。橋橋・大淀川河川敷清掃。橋・河川学習。橋上より風船放ち、橋に生け花を掲げるといった行事であった。

この運動に協力いただいた方々は、夫婦同伴組が多く、横断幕や看板をとりつけたり、風船に橋を結びつけたりの作業で、汗びっしょり、いま思うと当時の行事を何とかやりとげたものだと考える。

当時の主催責任者として、閉会のあいさつで、「多数の方々が、橋の日の趣旨にご賛同戴き、学習会その他の行事にご協力たまわり感謝にたえません。心から厚くお礼申し上げますと共に、ボランティア精神をもって、橋の日提唱運動に、今後共御協力賜りますようお願いいたします。閉会のあいさつとします。」と言ったことが、今なお頭の中に残っている。

副会長 横山忠夫



# 全国に広げよう橋の日を

悠久に流れる河川、生活文化の発展の絆である橋。

郷土のシンボルである河川と橋とのふれあいの日にしよう…と八月四日（ハシ）を橋の日にと提唱致しました湯浅利彦でございます。

「健康で豊かな生活環境と美しい自然環境の調和した安全で個性を育む活力ある社会の実現」（河川審議会の答申より）を目指して、平成九年度を初年度とする第九次治水事業五ヶ年計画がまもなく始まろうとしている。また、昭和三十九年の新河川法制定以来の大きな法改正も予定されている様ですが、ここで私達の身近な河川を考えてみましょう。

水はきれいか？魚等生物は多種豊富に生息しているか？緑は豊富か？河川とのアクセスはどうか？等々河川の本来の姿を考えるとき、疑問点が多いことに気づきます。

理想的な河川とは、どんな河川を云うのでしょうか？子供たちが遊び、老人も憩う…そんな親しみのある河川が理想的な河川ではないかと私は思います。

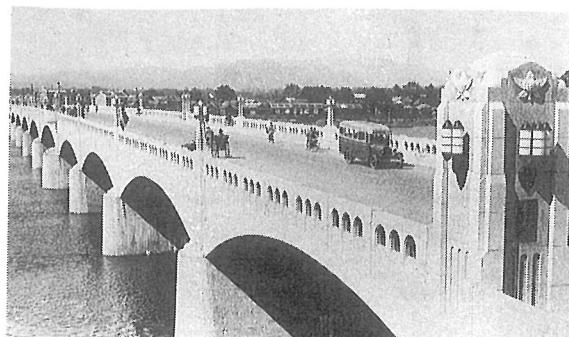
橋の日の行事で河川の清掃、稚魚の放流等実施致しておりますが、少しでも河川がきれいになればとの願いが込められているのです。又、町のシンボル的存在の橋は云うまでもなく、大変私達の生活文化に重要な働きをしてくれています。道路の延長線でもある橋、町の発展と共に歩んでいる橋…橋を語らずして町の歴史は語れません。

昭和六十一年からそういった川と橋に感謝しようと、橋の日のイベントが行われています。平成六年八月四日には、日本記念日協会から橋の日制定の認定をいただきました。

橋の日イベント開催地は、発祥の地延岡市、宮崎市、都城市、日之影町、北方町、日向市、門川町、入郷地区、鹿児島市とゆっくりながら広がりを見せてています。

今後とも、橋の日の趣旨を御理解いただき、宮崎県を発信地として、橋の日を全国にアピールして行こうではありませんか。

橋の日提唱者 湯浅利彦  
(株) ピー・エス鹿児島営業所勤務



# 橋についてのこぼれ話

私どもの会社は、橋梁の補修を専門にしている会社でございますが、私もこんにちで入社21年目となり数々の橋を補修してまいりましたが、思い出に残る橋と致しましては、沖縄営業所に勤務している時にたずさわった御成橋という橋が思い出に残っております。

昭和64年に沖縄県南部土木事務所より発注になりました御成橋補修工事を頂きましたが、この橋は名前からもわかりますように昭和天皇が戦前に沖縄県においてになった時に、渡られた橋と言う事で御成橋と命名された訳であります。昭和64年に昭和天皇が崩御された翌日にくしくも、補修工事が始まつた為、昭和天皇崩御に伴う補修工事と勘違いし、新聞社・テレビ局が取材に押し寄せインタビュー責めに会いました。

説明の上勘違いと分かり納得して頂きましたが、翌日の地元新聞に勘違いのエピソードとして掲載されておりました。

工事の内容といたしましては、市街地に位置している為、橋全体の景観を考慮し設計されておりましたが、工事完了後、新しく生まれ変わった御成橋という事で再度新聞・テレビに取り上げられ報道されました。

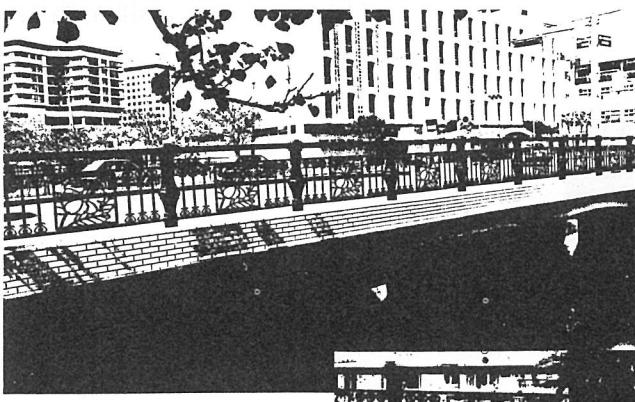
平成6年に沖縄へいった時、なつかしく思い御成橋へいってみましたが、都市計画に関わる河川改良の為、取り崩され新しい御成橋が架かっておりました。

新しく生まれ変わった御成橋をみてなにかしら一抹の寂しさを感じた事を覚えております。

生野 敏明  
(ショーボンド建設(株) 勤務)

あの橋この橋おらが橋

沖縄県  
御成橋



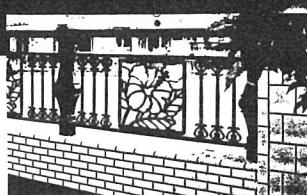
昭和天皇が皇太子時代に立ち寄ったことから名付けられ、大正10年に建造された那覇市久茂地の御成（おなり）橋も、時代の移り変わりとともにイメージチェンジ。

県南部土木事務所による御成橋補修工事が昭和64年に開始されていたが、総工費4,700万円をかけて平成元年2月26日に終了した。

昭和28年以来、35年ぶりの工事とあって、橋の下の鉄筋が腐食したり、コンクリート製の欄干もぼろぼろになり歳月の流れを感じさせていた。

今回の補修工事では橋の下を鉄板で補強し、欄干は、南国沖縄らしくハイビスカスをデザインした金属製のものとなった。

工事中、欄干の取り壊しが平成になった直後だったため、巷（ちまた）では代替わりを記念しての改修工事か…との憶測も飛び交ったが、單なる偶然と分かり一件落着というエピソードも。



昭和の薰りをかすかに残しながら、平成の到来とともに生まれ変わった御成橋は、静かに新しい時代を見守っている。

記事は「沖縄タイムス」平成元年3月14（夕刊）から注）この御成橋補修工事は沖縄出張所（当時）が沖縄県南部土木事務所から受注し施工されたものです。

写真是当時の生野敏明さんが第4回工事写真コンクールに応募されたもの一部を掲載させていただきました。

# 橋とまちづくり

橋の日の行事に係わって丸5年、8月4日のイベントが近づくと、いろいろと準備に追われてきたというのが実感であり、改めて橋とまちづくりと問われて、道は程遠いという気持ちが先に立ってしまう。

そのような中で、思い出すのが寅さん映画45作目の舞台となった油津の乙姫橋であります。

300年の歴史を持つ堀川運河、それを跨ぐ石造橋、その下を鰯肥杉の筏が連なる風情はまさに日本の原風景であります。

県内の市町村史をみると、私達の先祖が大変な苦労を重ね、難工事の末河川や用水路を開き、橋の架替えに辛苦を極めた記録などが数多く出ておりますが、その恩恵の全てを今私達が享受しております。

一方、技術の粋を集めた近代的な橋も経済性や機能重視に加えて景観性や快適性などアメニティ重視の橋に変わりつつあるように思います。

これまで垣間見た幾つかの橋の中から特に印象に残っている北九州市紫川に架かる風、海、太陽などをテーマとした橋、新潟県信濃川に架かる万代橋、八千代橋、北海道の小樽運河の風情などはまさにそこに住む人々の暮らしに息づいた歴史や物語をいつまでも支えているようなそんな重みを感じます。

霧島連山の夕映えを通してみるわが橋橋もおなじように誰もが感動するし宮崎の自然の美、人工の美を代表する貴重な財産であります。

宮崎橋の日10周年は一つの節目、地域や町の人たちみんなの心意気で守り育っていくものと思っています。みんなで楽しみを共有し合いながら宮崎橋の日を是非とも全国区にしたいそんな展望を持ち続けております。

美しい町には美しい橋があるといわれます。橋が綺麗にみえる街づくりへと発展させたい思っている今日この頃であります。

副会長 德 末 道



# 「名橋 橋橋はなぜ架替られたのか」

先日、縁あって「橋の日」実行委員会に出席させてもらいました。建設省職員として、今まで「橋の日」なる記念日があることを知らなかったことを恥入りつつも、皆さんの熱心な議論を聞き、遅まきながら「橋の日」と橋橋の歴史に興味が湧いてきました。

その中で、現在の橋橋が先代橋から架替られたことに話題が及び、どうも建設省が市民の皆さんの同意も得ず、勝手にと言うか半ば強引に架替たように思われているようでしたので、言い訳ではありませんが建設省一職員として釈明させていただきます。ただ、私も当時、宮崎工事に居た訳ではありませんので詳しい事情は分からず、諸先輩方や事務所の「六十年のあゆみ」(S63年刊行)を読み返し、分かった範囲で書きたいと思います。

現在の橋橋は6代目（5代目の仮橋を入れると7代目）ですが、S54年6月に完成しています。S47年6月から着工し丸々7年の歳月を要しています。それだけ大工事だったのでしょう。

(総工費26億4千万円) 5代橋橋は、日本有数の名橋だったようで、その、架替に際しては相当の反対もあったようです。しかしながら、S54年の宮崎国体を控え、またモータリゼーションの急速な発展と、青島日南観光のメインルートとして国道220号線の交通量も増大し、当時の2車線では対応しきれなくなり、都市計画街路のひとつとして4車線の南バイパス建設が行われ、その中で橋橋も架替られました。

架替理由は道路事情だけではありません。橋橋が渡る大淀川は、九州でも有数の河川ですし、宮崎県(市)民にとっては大切な財産です。しかし、川は一旦大雨が降ると水嵩が増し、時には私達の生命・財産に危害を加えます。大淀川を管理する建設省では洪水対策のため河川改修(築堤工事など)を進めていますが、改修計画の基となるのに計画高水流量というのがあり、これは毎秒何トンの水が流れ、これを超えると堤防決壊や越水のおそれがあるというものです。過去の最大洪水水流量を目安としていますが、堤防を造ったり川幅を広げたり、また流れの阻害となる障害物を除いたりして対応しています。現在の橋橋の橋脚は5基ですが、旧橋は橋脚が14基あり流れの阻害になっていました。この点でも橋の架替が必要だったのです。

私は、前の橋橋は見たことがありませんが写真で見る限りでは、確かに重厚なすばらしい橋でした。その取り壊しの時、「さよならセレモニー」が行われたことも理解できます。ただ、市民の皆さん的生活と安全の確保のため、建設省もやむなく架替せざるを得なかつたことをご理解願いたいと思います。

建設省宮崎工事事務所  
道路管理第一課長

宮崎主税

## **橋の日座談会総括**

宮崎橋の日も迎えて10年、これを契機に過去6年間に亘り実施してきた「橋の日座談会（出席者延べ62名）」を振り返りながら、ご出席の皆さんから頂いた橋にまつわる色々な逸話、ご意見、夢等、心に残るものをお紹介します。

皆さんそれぞれに橋には深い思いがあって、先人が残してくれた橋と、この恩恵による生活文化の発展など、古里の歴史に息づく橋の魅力に話は尽きることを知らない程でした。紙面の関係ですべての方々のご意見を掲載出来ませんでしたがお許し下さい。

副会長 青井 正彰

☆参加者の役職は、座談会開催日の役職名を掲載させていただいております。

## ～橋にたいする感性～

■古里の橋には、それぞれの時代を生き抜いてきた人々の思いと、古里の温もりを感じる。  
(出席者全員の意見)

■橋は人々の安らぎの場でもある、四季それぞれに趣を変える橋・・・朝靄に浮かぶ橋、夕日に映える橋、河川敷に寝ころんで、夕焼けで向こう側の橋を見るとシルエットがきれいで、世の中の喧噪（けんそう）を離れて一日中でも佇める場でもある。

(原田解氏 民謡研究家)

■五代目の橋橋には、橋の途中に水を飲むポケットパーク（休憩所）があり魚を釣る人、キラキラ輝く水面を眺める人等、ここが水や川に対する関心を深め、愛着を深める場ともなっていた。 (金丸トミ氏 金丸本店)

■「橋の日」と言う名前は、文学的にも非常にいいですね。 (山下順氏 俳人)

■西ドイツでは、自然と美観との調和の取れた、デザインで橋を造っている。  
(藤本 廣氏 宮崎大学工学部教授)

## ～橋は文化の拠点～

■橋は渡るだけのものでなく、橋のたもとに空間が欲しい、公園化された野外音楽堂とか野外劇場的なもの、橋のあるところはだいたい景色のよいところ、橋を背景に文化事業を発展できる様な空間、そういう発想が欲しい。 (南邦和氏 詩人)

※この事について付言すると、東京の「お江戸日本橋」が、80年の化粧直しの際（平成3年）・・・景観整備として4カ所の橋詰めに広場が新設された。橋詰めの地盤を掘り下げて広い大理石のテラスにし、側面からも橋が眺められるようになり、又水を滝のように流す壁泉を造り、樹木を配置して、夜間はライトアップされて、演奏会や観光客のための人力車による橋巡りなどのイベントも行われている。まさに橋が文化発展の為に蘇ったといえる。



## ～橋も観光の大きな要素～

■「美しい街には、美しい橋がある」街のロケーションとして橋は大事な役割を負っている。ヨーロッパでは直線橋を探すのは至難の技だ、これは橋が景観の一部として造られる為で、経済性だけを重視するだけでなく、そこまで考えての橋造りの配慮がされている。

(佐々木勝朗氏 県都市計画課ほか) 松形知事のお話のなかで、ヨーロッパでは観光船から、橋を下から見ることが出来るそうで、橋には下側にまで彫刻が施され芸術的な違った橋の美しさに心をうたれるとか。

橋橋もその様な橋に!!の願望もある。大淀川のように都市の中心に水を一杯湛え悠々と流れる大きな川を持つ都市はない、宮崎にもこういった芸術的橋が有れば又違った観光の目玉になるのでは。(司会)

## ～橋物語～

■昔は、「賃取り橋」というのがあった、今の有料橋、橋橋も初代の橋はそうです、最初に橋橋を造ったのは福島邦成翁(橋の日実行委員会の福島順一氏は翁の曾孫に当たる)ですが、号を“退庵”と言った。「退庵は大きなハシ(橋)で飯を食い」という川柳があるように橋を渡る場合には料金を取られた、今の宮崎の中心部と大淀とを行き交った人々はきっと渡り賃を取られたのでしょう。(渡辺綱纏氏 宮交シティ社長)

※福島順一さんの話によると、その時の橋の収支は

- ・賃 料 3,300円
- ・橋建設代 4,200円
- 差 引 △ 900円

差し引き900円の赤字で当時としては大金である。ちなみに渡し賃はというと

- ・1人 4厘
- ・牛馬 1銭2厘 であったとか。

県内には延岡の2厘橋などの賃取り橋があった。

■全国で一番古い橋は大阪の「猪甘津橋」・・・西暦324年に架けられている。大阪は水の都で八百八橋といろんな橋があって、橋の上からいろいろな角度で大阪城が見え歴史を感じさせる。(南邦和氏 詩人)

■高千穂町には「槍飛び橋」という橋が高千穂峡の一番狭い所に架かっている、昔、西南戦争で延岡方面で破れて敗走する薩摩の軍が、槍を棒代わりに川を飛び越えたところからこの名前が付けられたとか。(司会)

## ～人に優しい文化芸術橋～

■セーヌ川に架かる「ミラボー橋」の意匠の美しさ、川の流れに傲然と対峙する女神達の像の意匠は、鮮烈な印象をうける、と随筆家の奈良迫ミチさんは書いているが、宮崎にも美と安全を兼ね備えた、キャッチコピーで言えば「人に優しい橋」通る観念から渡る観念になる橋が欲しい!! 外国に行くと、橋がまるで彫刻品、車窓から見るだけで楽しい

(渡辺綱纏氏 宮交シティ社長、川口道子氏 鉱脈社専務取締役)

■日本でも最近各地で段々この面の努力がなされている。(藤本廣氏 宮崎大学工学部教授)  
宝塚の橋上公園、北海道の釧路市の幣舞橋にも見事な彫刻がある、これも市民の皆さん之力で完成させたとも聞いており、これに参加したのが全国の著名な彫刻家であったということで、本当に羨ましい限りである。(森本雍子 宮崎市文化振興課)

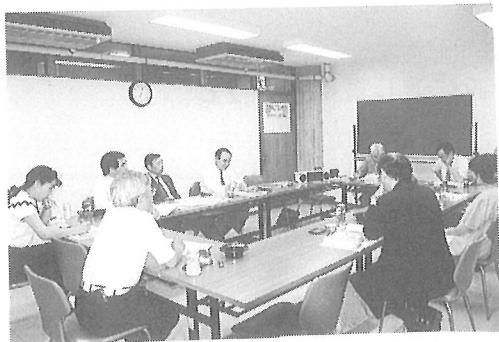
■宮崎にも文化的に優れた橋はある。「男はつらいよ」の映画で有名になった日南市の堀川運河に架かる堀川橋は、詩人野口雨情が昭和10年油津を訪れた時「水と筏（いかだ）を堀川橋の石の手すりは見て暮らす」と詠んでおり、文化的にも歴史的にも宮崎県が誇れる橋と思う

(湯浅利彦氏 橋の日提唱者)

この様な橋は県内至る所に残されている。高千穂町の神橋、日向市のめがね橋、小林市の三の宮橋、えびの市のめがね橋、また日之影町には熊本の通潤橋を造った石工によるめがね石橋もある。

■日之影町の青雲橋の横に架かる「音楽を奏でる橋」も面白い、欄干下に音符が組み込まれており、手をふれながら歩くと「ふるさとの歌」が奏でられる。

(湯浅利彦氏 橋の日提唱者)



## ～橋は心の架け橋～

■橋橋は大淀と宮崎の中心部を繋いでいるんだから、大淀の人と宮崎の人で橋の上で、綱引きをやるとか、苗木の交換をやるとか橋の上でイベントをやつたらどうか、それが本当の心の架け橋ではないか。（民謡研究家 原田解氏）  
アメリカ（サンフランシスコ）の金門橋でも橋の上で大イベントをおこなっている。  
(産業経営大学 ロバートアダムス氏)

■橋は人の出会いの場でもある、小説「マディソン郡の橋」は有名だが、橋はロマンチックでお洒落なところもある。  
(古嶋さゆり氏 建築パース設計)

■橋というのは機能とか造形性だけでなく「古里への架け橋」と言う精神的な意味も大きい、宮崎から他の都市に移って、橋橋を心の古里として便りで表現している生徒も居り、情緒教育の中でも大切なことである。  
(高山華弥氏 生目台東小学校の先生)

■鹿児島市の甲突川に架かる五橋の撤去について幾多の難関があったとか、新聞等で拝見したが、それだけ市民があの石橋に対する深い愛着を抱いていた事が解る。（司会）

## ～橋にかける（架ける）夢～

■「夢ひらく宮崎市」という題材で学年の枠を外して、子供さんに思い思いの絵を描かせると、面白いことに、道路と橋に一番夢をかけていたとのこと、遊ぶ橋を造れないか、橋の真ん中当たりに親水公園を造りそこに降りてゆけないか等大人では考えられない様な発想があるとか。（松本睦子氏 生目台東小学校校長）

■大淀川に二段橋があって、二段橋の上には、モノレールが走り窓からキラキラ光る美しい大淀川を眺めたり、美しい宮崎の街を眺めながら通れたらすばらしい。（土屋久美子さん 生目台東小学校生徒）

この「橋の日の運動」は宮崎市で昭和61年に始まり、各界の皆様のご理解と、ご協力により、この間、川、橋、そして人をテーマに「橋の日の歌」ができ、又、「シンボルマーク」もできて、段々と地域に根付き、認知されるようになってきました。橋は川と共に生きる私達にとって日常生活上なくてはならないものです。毎年8月4日を橋の日として、橋に対する感謝をこめた行事を実施しておりますが、行く行くは「橋の日」を宮崎県から全国にアピールしてゆきたいと考えております。

最後に最近「奥の細道」が俄然話題となって来ましたので藤本廣先生から寄せられた芭蕉の橋を詠んだ句を紹介し、結びとします。

芭蕉の句

- ◎橋桁のしのぶは月のなごりかな。
- ◎鶴鴿（せきれい）のあしもとからし橋の霜。



## **宮崎の橋**

## 1. まえがき

終戦までの宮崎県では木材生産県として木橋が主流であったが、大型台風や洪水などで多くの橋が流出していたようである。財政力のない宮崎県は、流出した橋を直ちに永久橋に架け替えることはできずに、流心部が永久橋で、他は木橋という混合橋も珍しくはなかった。終戦直後の国土復旧の最中には、資材、労力ともに不足しているなかで、当時としては世界で2番目の連続直弦綱ワーレントラス（小丸大橋）を旧新田原基地の格納庫廃材を使用して建設している。

宮崎県の本格的な橋建設は、昭和27年の道路法改正や昭和29年の「第1次道路5ヶ年計画」の制定からで、昭和63年にはすべての橋が永久橋となった。この間、道路橋・歩道橋を含めて、当時の技術やスケールの面で著名な橋が多数建設されている。ここでは、それらの一端の橋を紹介する。

## 2. 橋の形態のあらまし

橋には様々な形態がある。宮崎県の橋を紹介するまえに、代表的な形態を簡単に説明しよう。

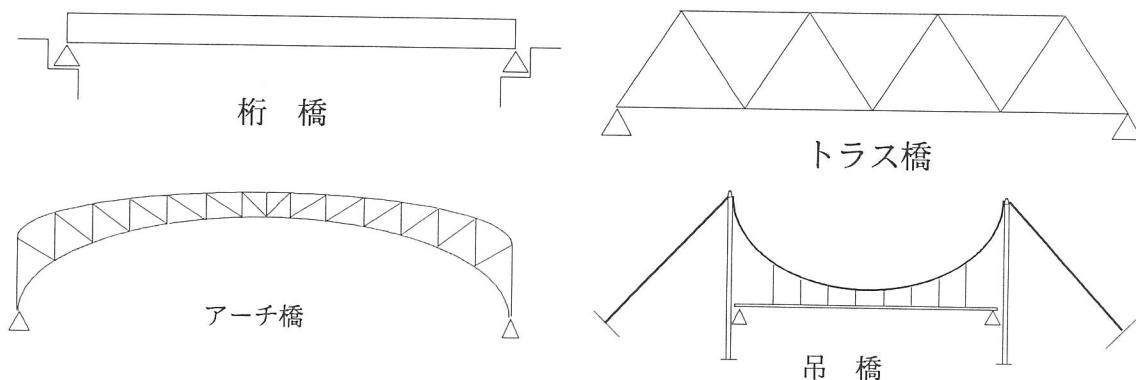


図-1 様々な形態の橋

桁橋は最も簡単な構造で古くは木橋から始まる。現在は鋼やコンクリートでほとんど建設されている。

トラス橋は細い部材を3角形に組み合わせたものである。図-2のように、3本の棒の両端（○の箇所）に蝶番をつけて結合したとしよう。頂点Aにどの方向の力をかけても全体はほとんど変形しない。最も少ない細い棒の組み合わせで安定な橋を造るには、3角形が合理的な棒の組み合わせ形状といえる。トラス橋はこのような考え方からできている。

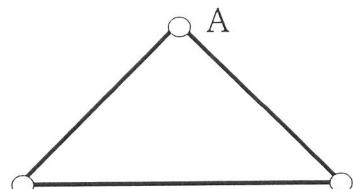


図-2

アーチ橋はローマ時代の石橋からも知られるように古い歴史をもつもので、宮崎県の西臼杵地区には、アーチ部分がコンクリートであったり、細い鋼材のトラスからなるものが数多くある。また、それらの多くは長大橋となっている。

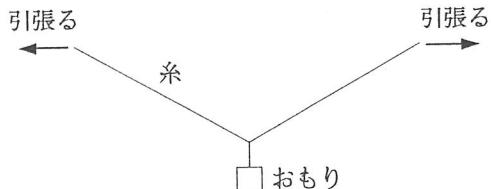


図-3

吊橋は本四連絡橋などの最大橋に多く採用されているが宮崎県の道路橋では米良大橋（竣工年：1962、橋長：159m）が唯一建設されているだけである。吊構造であるが、塔と桁を斜めのケーブルで吊った斜張橋などもある。宮崎県では吊床版橋が全国的に有名である。

糸の中央におもりを下げるときわむが、糸の両端を図-3のように引張れば、糸のたわみは小さくなる。吊床版橋はこの原理を応用したもので、糸の代わりに平行に並べられた数本のケーブルを両岸で引張り、この上に路面を設置したものである。

### 3. 著名な宮崎県の橋

宮崎県の橋は竣工（完成）時には国内でもその橋の形態では最大級であったり、あまり一般には知られていないが、施工方法が最初あるいは初期のものなど、橋の歴史を語るうえでは貴重な橋が多数ある。この章では、まず最大級の橋を、次いで施工面で貴重な橋を、最後にその他の優れた橋を一部ではあるが、紹介する。

以後の橋名のあと（ ）に竣工年と長さを示しているが、ここで、橋長とは橋の全長を、支間長とは主となる形態の部分の長さを示している。例えば、アーチ橋ではアーチの部分の両端距離である。

#### 1) 最大級の橋

まず、あまり知られていない吊床版橋を取り上げる。吊床版橋は公園やゴルフ場などに歩道橋として多く架けられている。宮崎県には全国でも唯一の道路橋（車も通れる橋）の速日峰橋（竣工年：1977、支間長：54m）がある。この橋は吊床版橋としては初期のものでありながら、工夫を凝らして道路橋まで拡張されたものであり、土木学会の名誉ある田中賞を受賞している。また、うさぎ橋（竣工年：1992、支間長：115m）は歩道橋であるが、竣工当時は我国最長の吊床版橋であった。

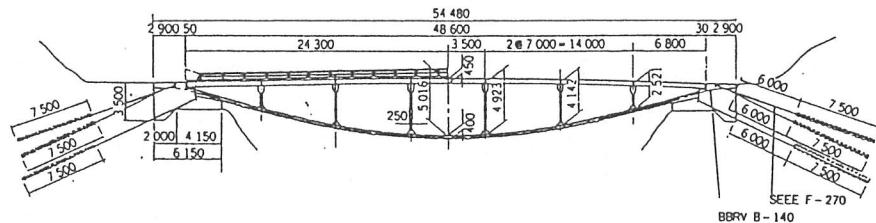


図-4 速日峰橋

アーチ橋は延岡から高千穂の国道218号を含む西臼杵地区に多数みられ、著名な橋が多い。雲海橋（竣工年：1973、支間長：160m）は施工例の少ない非対称アーチ橋で知事賞や全日本建設技術協会賞を受賞しており、青雲橋（竣工年：1985、支間長220m）は橋面から水面までの高さが国内1位の137mで、道路アーチ橋としては東洋一の高さを誇っている。国道10号線に架かる日向大（竣工年：1954年、支間長：67m）は我国では初のローゼ橋（アーチの一種）であり、宮崎県で最初の建設省直轄事業でもあった。最近も楨峰大橋（竣工年：1991、支間長：180m）干支大橋（竣工年：1994、支間長275m）などの長大アーチ橋が建設されている。干支大橋は県事業としては始めての田中賞を受賞している。これらは全て鋼アーチ橋である。

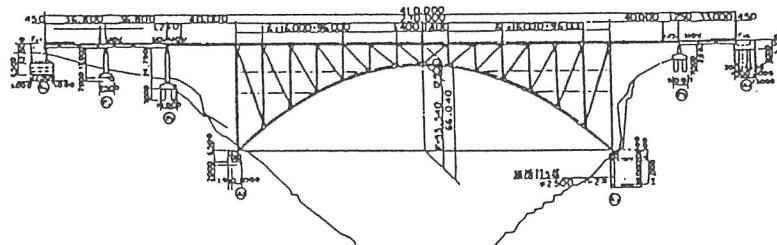


図-5 青雲橋

コンクリートアーチ橋では、青葉大橋（竣工年：1996、支間長：180m）が国内3位の長大さを誇るものとして挙げられる。

トラス橋では、小丸大橋（竣工年：1948、橋長：323m）が直弦鋼トラス構造としては世界で2番目の橋であり、資材の乏しい終戦直後を語る貴重な橋といえよう。鉄材の大部分は新田原旧陸軍飛行場の格納庫を流用しており、部材の1部に弾痕が観られる。

橋の橋長が長い場合、中間部に垂直な柱状橋脚を設置して橋の補強を図るが、田野蒼雲橋（竣工年：1993、橋長：310m）は、図-6のようなV橋脚を用いている。V橋脚は2本の橋脚の固定部を1箇所に集められる利点を有している。田野蒼雲橋はV橋脚を有する橋としては我国では最大級の橋である。

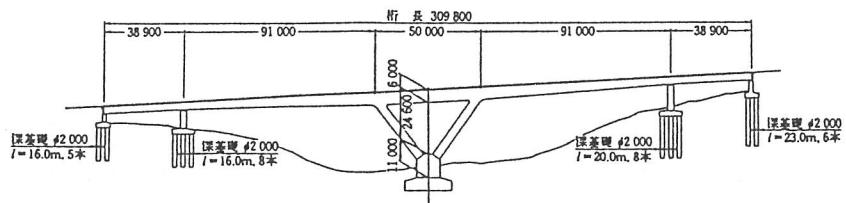


図-6 田野蒼雲橋

## 2) 架設工法

宮崎県の橋には橋を造る工法でも、施工当時では斬新なものを採用している橋が多くある。橋を施工する場合、道路部である桁（梁）やアーチ部をどのように安全に張り出してのかが問題となる。

長大コンクリート橋の架設では梁を徐々に張り出す、いわゆる張出工法が多く採用されているが、その1つに西ドイツが開発したディビダーグ工法と呼ばれるものがある。越野尾橋（竣工年：1962、支間長：110m）は、日本で初めて100mを越えたプレストレストコンクリート橋で、ディビダー工法を採用した初期の橋として有名である。

美々津大橋（竣工年：1967、支間長：63m）は同様な張出法であるが、川の中に設けられた橋脚から「やじろべえ」の原理を応用して両側へ順次梁を張り出していく工法を始めて採用した橋である。

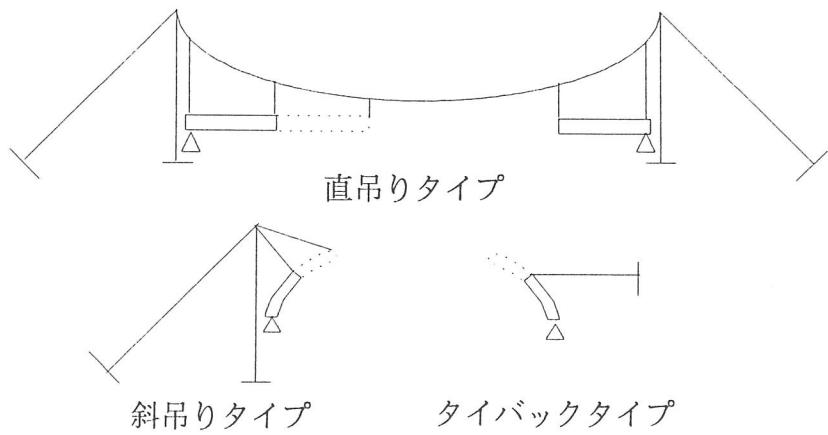


図-7 ケーブル架設工法

張出し過程でより安定性を保つために、図-7のように、ケーブルを使用する工法もある。尾鈴橋（竣工年：1950、アーチ橋、支間長：110m）では、ケーブル架設工法を採用した最初の橋であり、前出の青雲橋は国内での本格的な橋では初めてと言われる「タイバック工法」が採用されている。また、前出の青葉大橋も施工過程で軽量化を図る最近のメラン工法を採用している。

### 3) その他の観たい橋

前述した橋は橋工学的に語られるものであるが、宮崎県には観たい橋はまだ多数建設されている。紙面の都合上、すべてをご紹介できていないことをご了承願いたい。

波瀬大橋（竣工年：1979、橋種：連続トラス橋、支間長：150m）は県内でも有数の長大トラス橋で、龍天橋（竣工年：1990、鋼ローゼ橋、支間長：220m）は水面からおよそ100mの高さにある長大アーチ橋で、林道橋としては日本一の高さとなる。

綾の照葉大吊橋（竣工年：1983、鋼吊橋、支間長：250m）は渓谷からの高さが142mにもなる世界一高い橋であり、すきむらんど大つり橋（竣工年：1988、鋼斜張橋、支間長：155m）は歩道橋としての斜張橋では日本一を誇っている。

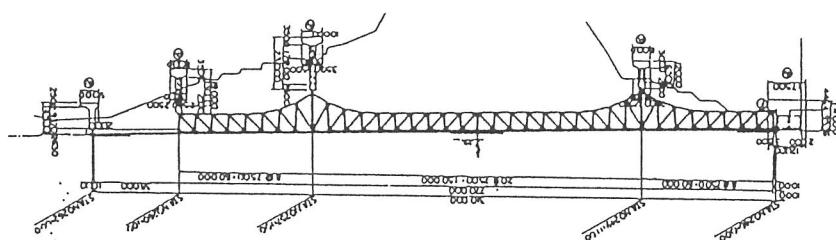


図-8 波瀬大橋

## 4. あとがき

宮崎県に終戦後から平成までの建設された橋を紹介したが、ここに示すように、宮崎県にはスケール的にも、技術的にも誇れる橋が多数ある。これらの橋を見る機会があるときに、ここで述べたことが参考になれば幸いです。参考にした本・文献は多数ありますが、一般の方が楽しめるとして「九州橋紀行（発行：西日本新聞社、1800円）」を紹介しておきます。

橋の日実行委員会

宮崎大学工学部 助教授 今井 富士夫



## 宮崎の石橋

---

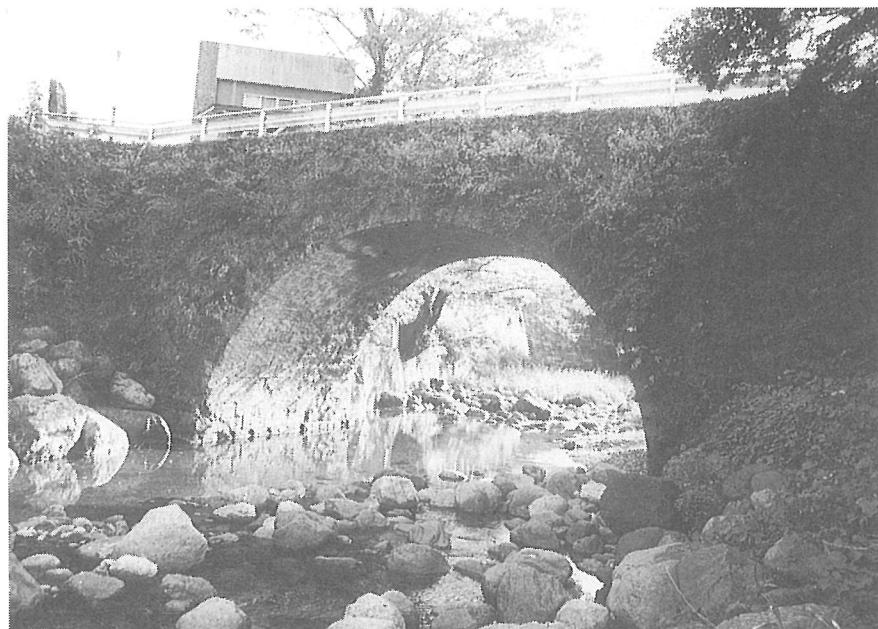
九州は石橋の宝庫である。しかし、案外と日本に石造アーチがあることは知られていない。この石橋は幕末の一人の石工により架けられはじめ、弟子達により代々受け継がれ、技も磨かれていった。

長崎に生まれた藤原林七は、平家落人の集落として知られる熊本県五家荘麓の種山でアーチ技術の研究に没頭、試行錯誤のすえ林七流アーチ論を編み出し、種山石工の祖といわれた。その技術は秘伝として一族のほかに漏らすことを固く禁じ、林七は四人の息子とともに数々の石造アーチ橋を架けた。林七の四人の息子の中でも三五郎は優秀な石工で名字帯刀が許され岩永三五郎となる。

宮崎の石橋もこの三五郎の流れをくむものであるが、他県に比べ数は少ない。ここでは、宮崎県内における有名な石橋六橋について述べる。

橋の日実行委員  
県土木部橋梁係長 大田原 宣治

# 久兵衛橋



所在地 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字上野

橋のデータ 形式：石造アーチ

橋長：20.7m

径間：10.9m

橋面高：8.0m（アーチ天端まで5.6m）

完成：文久3年（1863年）

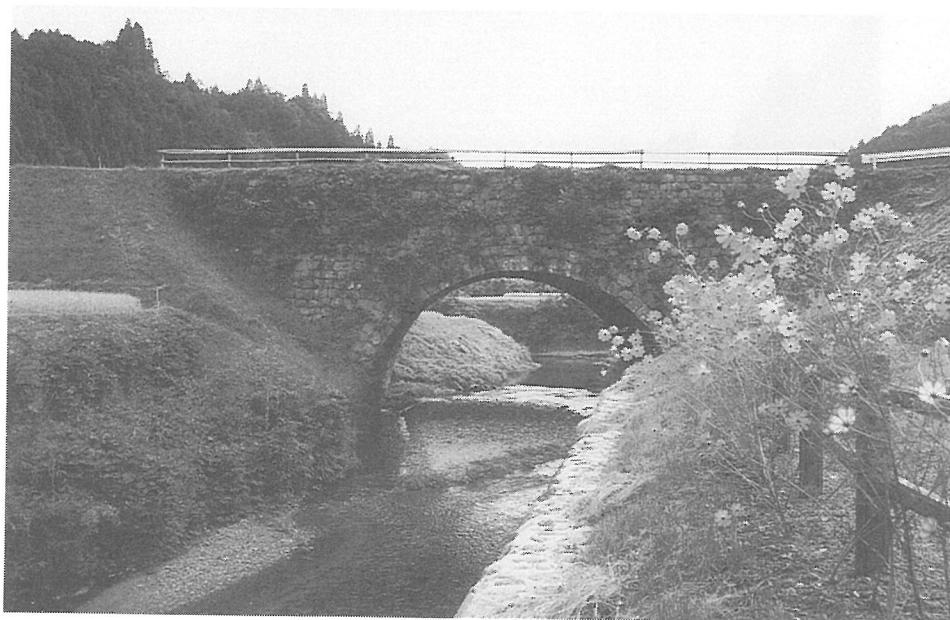
橋名は、この橋の寄付者である地元で酒造業を営んでいた資産家の「久兵衛」に由来しており、最大の特徴としてアーチの上幅より基礎が広いことがあげられる。（橋面4.3mに対して底幅6.9m）

この技術は岩永三五郎が鹿児島県の甲突川にかかる新上橋（上幅、下幅の差が1.7m）において初めて用いた技であるが、これは肥後の各地で応用されており、久兵衛橋の拡幅もその一環と考えられ、肥後の技術が来ている事を示している。

さらに、肥後の技をくむもう一つの特徴として見せかけの二重アーチがあげられる。これも三五郎が鹿児島県で初めて使った技である。

宮崎県唯一の江戸期の橋であるが、仕上げも立派であり側面には薦類も茂り、風情を漂わせ、川面で遊ぶ水鳥が心を和ませてくれる。

# 太鼓橋



所在地 宮崎県えびの市大字大河平字土川

橋のデータ 形式：石造アーチ

橋長：58.0m

完成：嘉永年間（1850年）

太鼓橋は、享保用水路（1732年完成、総延長6800m、灌漑面積316ha）の一部として有島川に架けられた水路橋で、110cm×50cm角の石積となっており、江戸時代の橋として工法的にも貴重なものであり、農作業用道路としても重要な橋である。

当時は八代将軍徳川吉宗の時代であり、この用水路工事は夜間に提灯を配置して、土地の高低を目測して測量し、川岸に沿い山麓づたいに開削したもので、途中5カ所の隧道が設けられており、この隧道工事は非常に難工事で賃金払いの方法としてノルマ制をとり隧道掘削岩屑一升いくらというようにして支払ったと云われている。さらに途中河川を横断するところにあり、洪水のたびに流出していた水路橋（おそらく木橋だったと思われる）を太鼓橋に造り替え、150年近く経過した現在も農村と農地の重要な役割を担っている。

平成8年には、太鼓橋左岸の上流、下流側に約900m<sup>2</sup>の緑陰広場を設けたほか、親水護岸や遊歩道の整備も行われた。（中山間地域の活性化を図る県営ふるさと水と土保全モデル事業の一環。）

この橋の約400m下流には後述の「めがね橋」もあり、毎年5月25日には「水天祭」が行われており、観光資源として期待されている。

## めがね橋



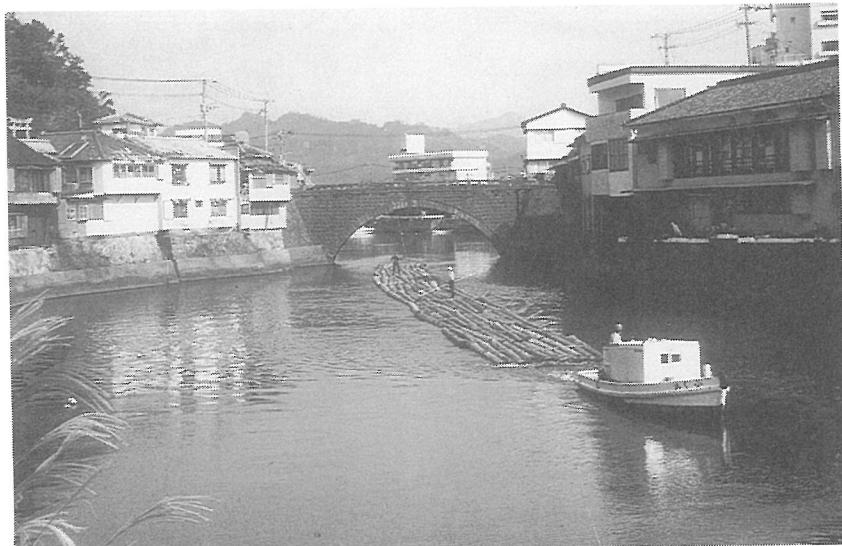
所在地 宮崎県えびの市大字大河平字佐牛野  
橋のデータ 形式：3連石造アーチ  
橋長：58.2m  
径間：14.7m + 28.8m + 14.7m  
幅員：2.3m（全幅3.16m）  
橋面高：17.2m（アーチ天端まで15.2m）  
完成：昭和3年

この橋は、熊本営林局により飯野駅貯木場までの木材搬出用に建設されたもので、昭和2年に着工され、材料としてはこの有島川上流の「土川」より切り出し木馬で運搬した50cm角の切石が使用されている。

工法としては、まず基礎部を造り（飯野町の建設業者 片平熊太郎氏施行）、アーチ形に櫓を組んでそれに合わせて1個1個の石を積み重ね、最後にアーチの一番中央に親石と呼ばれる五角形の石を組み込んで造られており、完成跡の最後に櫓をはずす時には一個の木を抜けば、すべての櫓が崩れるようにしてあったと云われている。（橋本体は鹿児島県日置郡串木野の肥田佐兵衛氏施行）

別名「太鼓橋」とも云われており、点検の結果、車両通行禁止となっている。

## 乙姫橋



所在地 宮崎県日南市

橋のデータ 形式：石造アーチ

橋長：19m

幅員：4.85m（全幅5.65m）

橋面高：6.9m

完成：明治36年

酒谷川、広渡川の上流に当たる飫肥、北郷方面は昔から飫肥杉の産地で藩財政の支えとなっていたため、1683年（天和3年）飫肥藩の5代藩主伊東祐実は飫肥杉輸送の能率をあげるために堀川運河の建設を計画、着工、2年4ヶ月と巨額の費用、膨大な労力を投入し1686年、延長900m、川幅平均27m、最大水深6mの堀川が完成した。当時、この堀川には3木橋が架かっており（現在は7橋）、このうち1橋が乙姫橋である。

この乙姫橋は、明治32年飫肥の石工、石井文吉氏により石橋による架替工事に着手、4年の歳月を費やして明治36年8月に完成した。当初、高欄はなく、後年大島の通称「御影石」が取り付けられた。さらに、乙姫橋を中心に商業地帯が自然発生的に展開され、堀川で分断された港地区とその後背地を結ぶ新しい街づくりにこの石橋の果たす役割は大きく、通行量も非常に多かった。

しかし、時代とともに陸上輸送の発展により運河の利用は減少し、飫肥杉（弁甲材）の筏下りの風景もあまり見られなくなっていましたが、平成4年松竹映画、寅さんシリーズ第45作「男はつらいよ」青春編にて堀川が全国上映され、一躍クローズアップされた。それ以来、乙姫橋の口ヶ地へ立ち寄る旅行者の姿を多くみかけるようになった。

## 二俣橋



所在地 宮崎県都城市安久町尾平野地先

橋のデータ 形式：石造アーチ橋

橋長：上流側32.7m、下流側38m

径間：16.9m

橋面高：14.3m（アーチ天端まで12.23m）

幅員：4.04m（4.64m）

完成：明治40年

都城から安久・尾平野を経て日南に通じる道路は、明治34年に県道として改良に着手したが、安久温泉から上熊トンネルまでの間が難工事ではかどらず、明治37年日露戦争により一時中断、明治40年ようやく開通、この年に二俣橋と上熊トンネルが竣工した。

二俣橋が架かる尾平野は、島津藩が開拓、農民を移住させ、鉄銃を造るために志布志から安楽川沿いに末吉町、新田山を経由して砂鉄を運びこみ、木炭を焼き秘密の製鉄を行っていたのではないかと云われ、人の踏み込んだことのない深い山と鍋谷の渓谷のため孤立したところであった。

この二俣橋が架かった当時は九州一を誇り、橋を架けるための運搬手段は人力による他はなく、1本の流木を木挽きが二つに胴割りし、人力で巻き上げて基礎造りを行い、石工による切り石で積み上げて造り、当時の桂内閣の時、米が60kgで4円94銭、大人の日当が40銭、石工で50銭程度とある。

二俣橋が架けられたことにより、尾平野の山林開発が進み、都城との交流が盛んになり、明治42年には学校も設立され、入植が急増し賑わっていた。

現在は、近くに新しい橋梁（鍋谷橋）が架けられ、都城市道橋となりまた安全のため自動車通行禁止となっており当時の面影は残っていない。

## 昭和橋



所在地 宮崎県日向市大字富高字門田

橋のデータ 形式：3連石造アーチ

橋長：17.87m

径間：4m×3連

完成：昭和7年

日向市街地を東西に流れる富高川の上流、本谷に昭和橋は架かっており、県北でも珍しい3連アーチの石橋で、農道と農道を結び河床にはヨシが繁り人が歩いて渡れる小さな流れの中にある。使われた石はすべて門川町内から切り出し、馬車で運搬したといわれ、橋の風景の美しさ、また歴史的な石橋の様相から昭和62年9月30日、日向市の有形文化財（建造物）に指定されている。

特徴は、久兵衛橋と同じように、アーチ部分の石積みが二重になっていることがあげられ、種山石工一族の岩永三五郎の技術が使われている。設計が小山字太郎氏といわれており、彼は香川県丸亀市で石工として修行したのち鹿児島県川内市にもいった形跡があるので、鹿児島で石橋の技術を修得し、そこで三五郎の影響を受けたのではないかと云われている。

さらに、橋脚部に五角形の石を用いてその石から両側にアーチの円弧となる石を積み上げ、優美な意匠的な工夫をこらしていることも、三五郎の影響が考えられる。

また、富高川上流の地形や水量、出水時の諸条件を詳細に調査、出水時の流水による衝撃緩和を考慮して橋の架橋地点だけ川幅を広げ、そのために3連のアーチとしていることは、技術者として総合判断能力の高さがうかがえる。

普段、人通りは多くないが、農繁期になると往来が激しくなり、田園風景を引き立てる効果を持ち、近くに住む人は、「夕日が山に沈むときの石橋の表情は、絵にもかけない美しさ」と話している。

## みやざき「橋の日」行事のあゆみ

第1回（昭和62年）・ラジオ体操（宮崎市役所前噴水広場）

- ・橋橋、河川敷清掃
- ・橋、河川学習会（実行委員講話）
- ・風船メッセージ付飛放

第2回（昭和63年）・橋、河川講話（宮崎土木事務所 岡山義人次長）

- ・小学生 橋、河川について作文朗読  
(小戸小学校五年、城 磨美さん、同六年、河野将貴君)
- ・橋橋、河川敷清掃
- ・幼魚放流 鯉1000匹
- ・幼稚園児演奏会（江南幼稚園）
- ・大学生吹奏楽部演奏会（宮崎大学）
- ・風船メッセージ付飛放

第3回（平成元年）・橋橋、河川敷清掃

- ・小学生、中学生 橋、河川について作文朗読
- ・幼魚放流 鯉1000匹
- ・幼稚園児演奏会（芳士幼稚園）
- ・風船メッセージ付飛放
- ・橋、河川講話（実行委員講話）
- ・橋の写真展第1回（宮交シティー）

第4回（平成2年）・橋橋、河川敷清掃

- ・橋の日新聞発行第1号（橋橋物語、座談会開催）
- ・橋への献花
- ・橋の写真展第2回（宮交シティー）
- ・橋の木記念植樹（宮崎小学校 樹高138cm）
- ・風船メッセージ付飛放

第5回（平成3年）・橋橋、河川敷清掃

- ・幼魚放流（うなぎ30キロ）
- ・橋の日新聞発行第2号（橋の日座談会開催）
- ・橋への献花
- ・橋の日の歌発表（宮崎少年少女合唱団） 宮崎市役所前噴水広場
- ・ふれあいコンサート（宮崎少年少女合唱団）

- 第6回（平成4年）
- ・橋橋，河川敷清掃
  - ・幼魚放流（鯉1000匹）
  - ・橋の日新聞発行第3号（橋の日座談会開催）
  - ・橋への献花
  - ・橋の日の歌テープ贈呈（宮崎市教育長）
  - ・風鈴（心さわやか清涼たっぷり）橋実現
- 第7回（平成5年）
- ・橋の日シンボルマーク公募、発表
  - ・「長塚 節 朝まだき」作曲発表
  - ・橋橋，河川敷清掃
  - ・大淀川をきれいに”魚の放流”
  - ・橋の日新聞発行第4号（橋の日座談会開催）
  - ・橋への献花
  - ・風鈴（心さわやか清涼たっぷり）橋実現
- 第8回（平成6年）
- ・橋橋，河川敷清掃
  - ・大淀川をきれいに”魚の放流”
  - ・橋の日新聞発行第5号（橋の日座談会開催）
  - ・橋への献花
  - ・橋の日コンサート（宮崎少年少女合唱団・橋太鼓響座・日向太鼓）
- 第9回（平成7年）
- ・橋橋，河川敷清掃
  - ・大淀川をきれいに”魚の放流”
  - ・橋の日新聞発行第6号（橋の日座談会開催）
  - ・橋への献花
  - ・橋の日コンサート（大塚中吹奏楽部）
- 第10回（平成8年）
- ・橋の日パネル展（於 宮日会館）
  - ・橋橋，河川敷清掃
  - ・大淀川をきれいに”二万匹、魚の放流”
  - ・橋の日新聞10周年記念号の発行
  - ・橋への献花
  - ・協力団体への感謝状贈呈
  - ・橋の日コンサート（橋太鼓 韶座・宮崎女子高校）



## 初代橋橋と福島邦成

田代 学

明治13年、初代橋橋を架けたのは行政（当時、宮崎県は鹿児島県に併合されていた）ではなく、福島邦成という一人の太田村中村町の医師であった。

福島邦成という人物について【橋橋を架けて金を取ったらしい】という程度の知識をもっている宮崎市民はまだ良い方で、ほとんど知られていないのが実状である。本書を進める内に邦成という人物を調べていくと江戸時代末期から明治時代前半にかけて彼が宮崎に果たした役割は驚嘆に値するものであり、わずか数10頁で彼の業績や人間性について言及できるものではないことを知った。本書には本項以外にも度々、邦成が登場してくるが、それでも彼の実像に迫ることは困難であろうと思われる。

福島家の先祖は源氏の頼光にさかのぼる。源頼光の子を頼國と言い、8世の師光が摂津国（現在の大坂府から神戸付近にかけての藩政時代の国名）福島に住んだことから、その【居を氏となす】に至ったとされている。師光から26世を順安といい、初めて日向国太田村に住み、その後代々延岡藩に仕えて医を業とした。

順安を初代として代々医を業とし、12代にあたる父・仁安は石川氏を娶って文政二年（1819年）正月、邦成が生まれたのである。そして天保七年（1836年）邦成17歳の時、江戸・京都・大阪に上り、当時の最高学府（昌平黌や適塾など）に学び蘭学、西洋医学・薬学を修め医師となり、7年後の24歳（1843年）の時に帰郷、中村町へと帰ったのである。

邦成の業績については彼の全体像がわかる程度に本項では簡単に列記するにとどめる。

帰郷した邦成は父・仁安に代わって延岡藩に仕え、幕末まで延岡と宮崎の間を行き来し、医業ならびに子弟の教育に専念した。その間、若山健海（若山牧水の父）とともに、宮崎県（当時は日向国）ではじめての牛痘接種（天然痘の予防）を行なっている。49才の時に明治維新をむかえ、明治4年52歳の時に太田村に宮崎病院を設立した。その後明治10年58歳の時に西南戦争を経験し、戦後処理のために宮崎出張警視病院長を命ぜられている。その他にも医学講習所を設けたり、建医学所議（医学教育機関設立の必要性を訴えた）を上奏したり、邦成は藩政時代末期から明治時代初期にかけて【宮崎県の医学の発展に極めて貢献】した人物であった。

医師としての邦成の業績は関係者以外にはさほどの興味も抱かれはしないであろうし、さほどの驚嘆にも値しないであろう。また実際に医師以外の邦成があったからこそ医師としての邦成の評価が現代に伝えられていると言っても過言ではない。

江戸・大阪に留学中の天保11年（1840年）21歳の時、邦成は3ヶ月にわたって東北地方を巡って風俗を調べ名勝を探り、賢人・学者を訪ねて交遊を深め、さらに遠く蝦夷地の境まで行って国防を憂えたという。

その後は延岡藩に仕え医業に専念していたが、明治元年7月49歳の時に世界一周を志し単身清国に渡り、上海より江南に入り香港、アモイ（福建省南部の地名）を経てシンガポールまで

行っている。しかしそこで事故に遭って明治2年6月、長崎に帰り、9月帰郷した。さらに明治3年3月、フランスマルセユまでたどり着くものの、フランス戦争（1870～1871年）のため上陸できず、止むなく帰国の途に就いている。

明治12年60歳の時には大淀川に架橋の必要性を唱え、県（当時は鹿児島県に併合）に架橋願いを提出するものの、【架橋は美事なり】と架橋は許可されなかった。しかし有志とともに蒸気船日向丸を購入し、日向諸港（美々津、広瀬、赤江、内海）を経て大阪に至る航路をはじめて開いたのである（赤江港の項参照）。そして翌13年再び架橋の必要性を説き、ついに許可され独力私財を投じて大淀川に木橋をかけ、自ら【橋橋】と命名したのである。

明治時代初期に蘭学、医学、薬学などを極め、東京（江戸）、大阪、京都、東北さらには蝦夷地の境まで行き、東南アジアから欧州まで旅した邦成の見識、学識そして未来への展望は如何なるものであったのだろうか。ましてや、そんな邦成を理解しうる人物がこの宮崎の地にいたのだろうか。それ以上に邦成ほどの人物が宮崎の地に下野していたことに疑問すら感じるのである。

邦成が私財を投じて明治13年に2月に開始された大淀川架橋工事は同年4月24日には早くも開橋式を挙げ、邦成自ら【橋橋】と名付けた。工費1,700円（一説には2,000円）は全て邦成が個人で負担したのである。

1,700円という金額をどのように評価すればよいのかは難しい。当時の小学校校長の月給が約10円（村長もほぼ同様）であり、現在の小学校校長の月給を若干低く見て40万円とするとき、橋橋架橋費用1,700円は現在の6、800万円に相当する。その他の物価などでも計算しても架橋費用は軽く5、000万円以上に相当する金額であることは間違いない。

邦成は自らが架橋した橋橋の渡り賃を取ったために  
「退庵（邦成のこと）は大きな橋（著）で飯を食ひ」  
と川柳に謡われたというが、当時の人々がどのような気持ちで、何を理解してこの句を詠んだのだろうか。

明治3年、政府は【賃取橋の架設】を奨励しているが、これは（自治体に金が無いなら）金を取ってもいいから橋を架けて交通・流通を進めようとしたことなのであろうが、橋という概念すら頭に無かった宮崎の人々が賃取橋の意義すら理解できなかつたのは当然であろう。

藩政時代には八百八橋の町として知られていた大阪では、当時すでに架橋に加えて橋の修理・維持にかかる費用が極めて問題になっていたと、昭和11年発刊の大阪市政に詳しく記されている。その大阪で医学を学んだ邦成は宮崎の誰よりも橋の役割そして修理・維持のための費用捻出のためには橋の渡り賃が必要であることを認識していたはずである。

明治16年、宮崎県再置に際し、邦成は県に堅牢な木橋の架け替えを申請するも、許可を得られず、橋及び新橋構築用の杉板百余間（200メートル弱）を県に寄付するのである。そして翌17年6月、県によって2代目橋橋に架け替えられ賃取橋と言われた橋橋も無賃橋となつたのである。

橋橋が無賃橋となってから40年後の大正12年に橋橋以外に初めて架橋された赤江橋そして2年後の大正14年に架橋された高松橋はともに（私費や公費ではなく）架橋組合が公募した架橋資金によるものであったが、依然として賃取橋であった。

邦成は橋橋の収支決算を履歴書に

「橋橋架設並ニ修繕費一切金四千弐百円、橋賃收入金三千三百円、元資金九百円ノ額（欠）損トナル」（著者注）

と記している。これからわかるることはわずか4年とはいえ橋の修繕維持費は架橋費に匹敵もしくは上回る金額に及んでいたということである。

橋の渡り賃は一人6厘、牛馬諸車1錢8厘であり、仮に橋賃收入3,300円の8割、つまり2,640円が人だけの渡り賃だと考えると実に4年間で44万人の人が橋橋を渡ったことになるのである。それから約40年後、赤江橋の渡橋者が2年間で33,000人であった事実と比較すれば【橋橋の役割】はおのずと理解できるかと思われる。

橋橋を県に寄付した後、邦成は橋橋に一切関与していないが、橋橋は度重なる流失にもかかわらず宮崎県はその都度直ちに再架橋している。そして明治31年、邦成が80歳で死去した際にには橋橋はすでに4代目となっていたが、大淀川には未だ【橋橋以外に橋は無かった】事実は邦成の橋橋架橋の先見を理解するに十分である。

【橋】を知らなかつた宮崎の人々そして行政は邦成の橋橋によって初めて橋の役割と恩恵を知ったのではなかろうか。医師としての業績は当然ながら橋橋架橋や大阪との汽船航路開発など邦成の宮崎の近代化に対する功績は極めて評価されるべきであるにもかかわらず残念なことに彼の実像は今に伝えられていない。

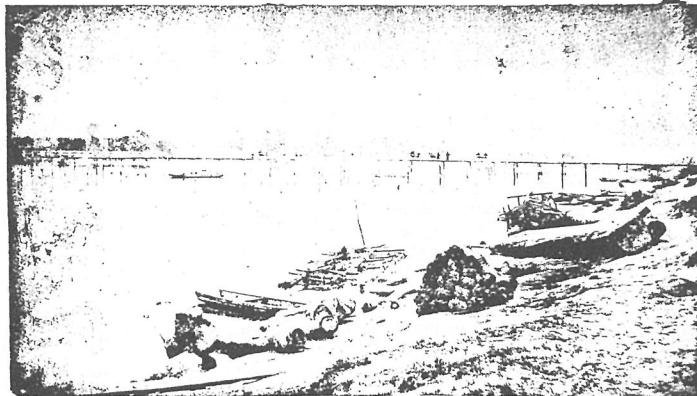
邦成の初代橋橋から100余年を過ぎた現在もその【橋】の名は残っているが、独力・私財によって架橋し自ら橋橋と名付けた邦成の名は現在の橋橋北詰にある橋碑の裏側の文章中にわずかに記されているだけである。かつて邦成の橋橋架橋の功績について【石に刻してこれを不朽に伝うべく中村町側橋畔に建碑された】とされているが、現在ではその碑さえ所在を失っている。

初代橋橋架橋は邦成の郷土宮崎に対する業績の一つに過ぎないのである。

（参考資料）

宮崎市史 宮崎市史年表 宮崎県政外史 大阪市政

日向郷土事典 宮崎県大百科事典 回想記 宮崎県の歴史



初代橋橋（明治13年架橋）

（注）写真は福島邦成翁遺品の中から故福島芳子氏のご好意によりお借りしたものである。写真の詳細については不明であるが、邦成の遺品ということと橋脚、欄干から判断するに、龍ヶ井（現江南荘付近）から撮影した初代橋橋と考えられる。著者の知る限り初代橋橋の写真は書物等に掲載されたことはなく極めて貴重な写真である。橋橋上には人力車が数台見られ、手前の岸には架橋以前に活躍したものであろう渡し舟が朽ち果てているのが見受けられる。

## 橋橋七代

現在の橋橋は明治13年、太田村中村町（まち）の医師・福島邦成が私財によって架橋した初代橋橋から数えて7代目にあたる。

邦成が初代橋橋を私財をもって架橋したことは有名であるが、初めて大淀川に橋を架けたのは邦成ではないとされている。また宮崎県政外史には【昔は各藩防備上の見地から橋は架けなかつた】とあるが、廢藩置県後大淀川にすぐに架橋されなかつたのは金がないという地方都市の【財政的な問題】が全てであったと思われる。

### 宮崎県政外史によると

「宮崎の商人・久世源一と荒川唯一の両名が、敷板や桁を離合させて、洪水の害を避ける架橋法を発明して、賃取橋の架設を県に願い出たが、この二人の財力では架橋は実現が難しいと思われていたところへ鹿児島の商人・林次郎が、自費壱千五百円を投じたいと願い出たため、実現しそうな大淀川への賃取橋架設の許可はいかがであろうか・・・」

（注）大蔵省諸署願伺届を著者改略

との旨を明治6年5月、宮崎県権参事・上村行徴、宮崎県参事・福山健偉の連名で大蔵省事務総裁参議・大隈重信宛に送っている。

それに対して大蔵省は

「永久に賃取橋を許可することは宜しくないから、年限を定めて許可せよ」との指令を送っている。

当時大淀川の下流域に架橋する技術的な問題は無かったと思われる。現代のように流れない、壊れない橋など考えてもいない時代であり、橋とは水にぬれず早く渡ればよかったのである。川底に杭（くい）を打ち込んでそれに板を渡していくば簡単に橋は架けられるのである。【流れない橋】を考えるよりも、前述した久世源一らが発明したという【敷板や桁を離合させて、洪水の難を避ける架橋法】のような思考が重要であったと思われるのである。そして何よりも重要なのは【架橋費用】と言っても過言ではないだろう。

明治6年に大淀川に初めて橋が架けられたとされているのだが、その事実が記された文書も写真も絵も残されてはいないためこの橋は架橋が実現しなかつたという人もいる。しかし通論（宮崎市史、宮崎県政外史）としては【明治6年に宮崎の商人・久世源一と荒川唯一の両名が鹿児島の商人林次郎の応援を得て大淀川に初めて橋を架けたが、すぐに流失した】とされている。

明治6年に大淀川に架橋されたかどうかの真実はわからないが、【橋橋】と命名したのは福島邦成であり、明治13年に彼が架橋した橋こそが紛れも無く【初代橋橋】なのである。以下初代から7代までの橋橋について【記録】という意味で数字的なものをできる限り正確に記しておく。

## 【初代橋橋】

明治13年、太田村中村町の医師・福島邦成が私財をもって架橋した。現在の橋橋よりも上流の上野町通筋に接続し、中村側も旧中村町本通よりも20メートル程上流に接続していた。長さ382メートル、幅3.9メートル。

初代橋橋の橋脚はわずかではあるが干潮時にも顔を出す事なく大淀川の水中に残存している。それをたどると上野町通の延長部（市役所南側堤防の階段のあたり）つまり、かつての上野町通南端と善栖寺前の路地が延長線上で結ばれているのである。邦成のかけた初代橋橋は中村町本通から外れていたのではなく、意図的に上野町と善栖寺南側の邦成の家（診療所）を最短距離で結んでいたのではないかとも思えるのである。

明治16年7月、宮崎県再置に際し邦成は県に堅牢な木橋の架け替えを申請するも、許可得られず、橋及び新橋構築用杉板百余間（200メートル弱）を県に寄付し、翌17年に県によって橋橋は架け替えされることになるのである。

宮崎市史には【古くなったので県によって架け替えられることになった】と記され、（流失した17本の橋の項参照）【流失した】と表現するのは適當ではないかもしれない。しかし橋は各所が破損し流失に近い状況ではなかったのかと判断した。

## 【2代目橋橋】

明治17年3月着工し、同年6月17日に完成した。初代橋橋と異なり上野町通から中村町本通に接続し、この橋から無償通行となったのである。長さ378メートル、幅はわからていない。

上野町通から中村町本通に直接接続したのだが、橋の長さは4メートル短くなっている事実は（川岸の形状にもよるが）上野町通～中村町通を結んだ方が、初代橋橋よりも【近かった】ことがわかる。その意味では初代橋橋の位置はやはり不自然であったとも考えられる。

明治19年9月23日、前日からの暴風雨のために午後5時橋は流失した。

## 【3代目橋橋】

3代目橋橋についてはほとんど資料がなく、架橋された正確な年月日、長さ、幅についてもわからっていないが、2代目橋橋流失後すぐに2代目と同様に位置に再架橋されたものと思われる。明治21年6月17日、前日からの強雨にて大淀川は増水し午後4時に橋は中央から2つに崩壊・流失した。

2、3代目橋橋はともに2年程で流失しており、後に仮橋として架橋された5代目程度の粗末な作りであったと思われる。

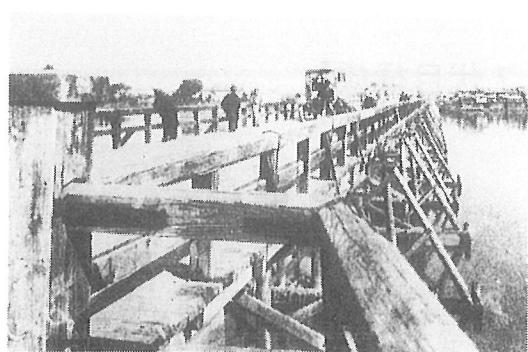
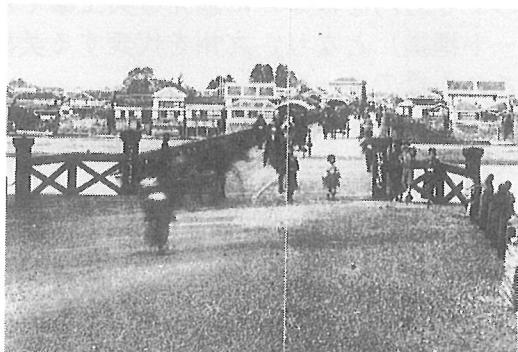
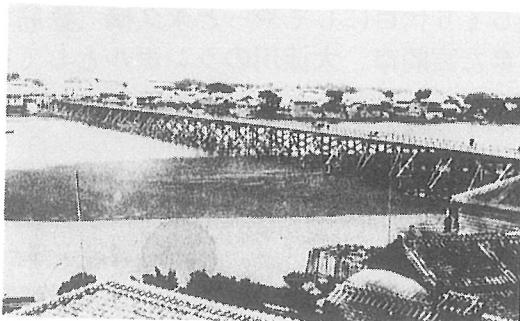
## 【4代目橋橋】

明治21年国道改修に伴って8月14日起工し、同年12月1日に完成した4代目橋橋は長さ362メートル、幅5.4メートルであった。そしてこの橋は上野町通ではなく、新しく作られた橋通から中村町通へ接続されたのである。

宮崎県政外史などでは【ほぼ現在の橋に一致して】架橋されたとあるが、実際は2、3代目そして6代目や現在の7代目の橋のように中村町通に直接は接続しておらず、中村町通とすぐ東側の通り（かつての東町）の中間程に接続していた。

昭和2年8月11日、台風の接近により前日からの豪雨により、正午前上流の高松橋が流失しこれが激突した橋橋も崩壊流失した。

2代目、3代目橋橋とともに2年の寿命しかなかったのに対して4代目橋橋は実に39年にわたって活躍したことになるが、この橋も大正15年頃にはすでに老朽化して危険となったので架け替えの意見書が県議会に提出されている。5代目橋橋流失後その仮橋が本町通延長上に熊本工兵隊によって架橋されるのだが、それはいつしか橋橋の仮橋ではなく本町橋と名付けられたのである（本町橋の項参照）。

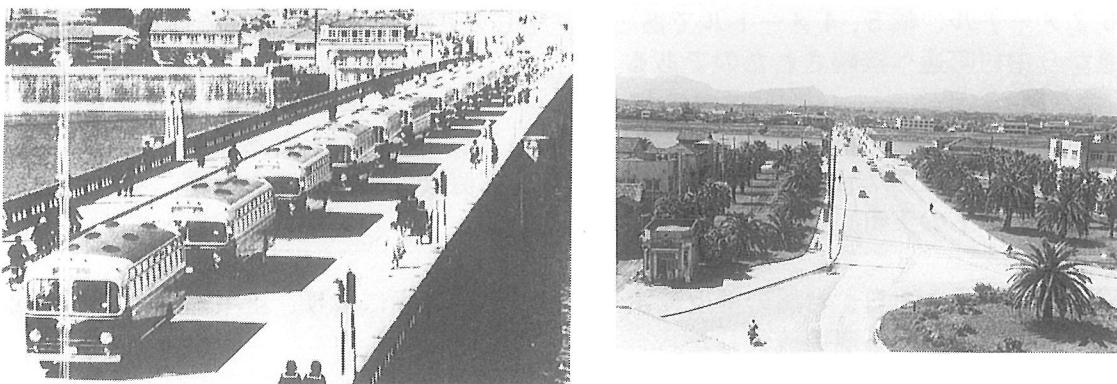


## 【5代目橋橋（仮橋）】

昭和2年10月13日起工し同年12月1日に完成。長さや幅など詳細な記録は残されていない。昭和5年8月の暴風雨によって橋の一部が破損、翌6年に県の命令で市が撤去した。

資料によっては仮橋である5代目橋橋を【5代目と認めていない】資料もあるが、本書は宮崎市史に従って本橋を5代目とした。また、仮橋と明言するだけあって、本当に貧相な橋であるが、それでも3年近く流失しなかったことに驚かされる。また、この橋は橋通ではなく、現在の

## 【6代目橋橋】

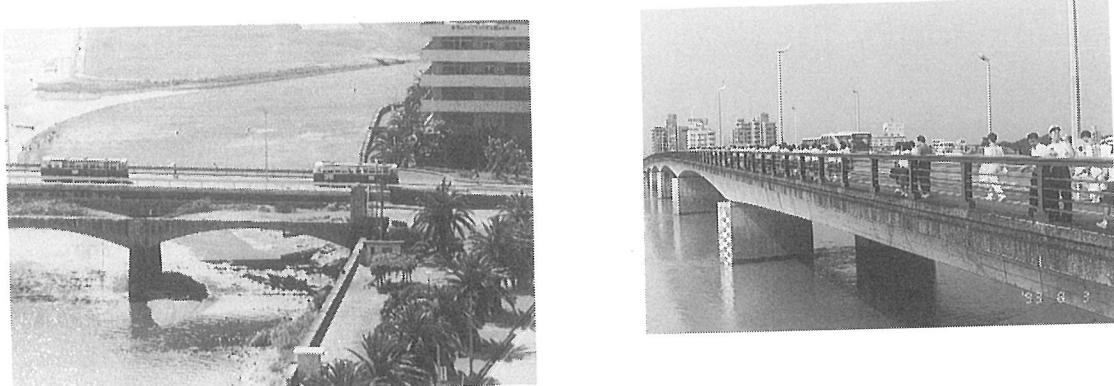


昭和5年4月1日起工し昭和7年4月30日に完成した6代目橋橋は長さ385.5メートル、幅16.4メートルであり、その工賃120万円は同時期に完成した県庁新館新築工事（現在の旧館）の70万円をはるかに超える大工事であった。そして6代目にしてやっと永久橋（鉄筋コンクリート構造）となり、九州を代表する美橋として、また宮崎市、大淀川のシンボルとして市民に愛された橋であった。

[大淀川イコール橋橋] というイメージが生まれたのは、この6代目橋橋になってからだと思われる。

多くの台風、暴風雨などに流失することなく、また第2次世界大戦によって2、3ヶ所に被弾を受けるものの、崩壊することなく、まさに【激動の昭和】を生き抜いた6代目橋橋も、昭和40年代に入ると増加する交通量をさばききれず架け替えられることになるのである。

## 【7代目橋橋】



昭和47年5月20日起工し昭和54年6月に完成し、現在に至っている。長さ389メートル、幅28.9メートルと初めて4車線通行の橋となったのである。

無駄のないスマートな現代の建築物に口マンを感じるのは当然のことかもしれないが、失われた6代目橋橋には【何かノスタルジア（郷愁）】を感じる宮崎市民が多いのではないだろうか。また橋にまつわる裏話や逸話などが近代化とともに消えうせていく現実も橋から口マンを失わせていく。

郷土の作家・中村地平は昭和19年発刊の新風土記叢書の中に6代目橋橋について、その美しさを記している。

「県内の大抵の町は、水の眺めにめぐまれているが、宮崎市もその例にもれない。大淀川という大河が、市内を貫流しており、210余間もある橋橋が懸かっている。この川の眺めを、宮崎市からとり除いたら、町の美しさは半減するにちがいない」

橋に夢をそして口マンをかけた時代は過ぎ、現代では橋は交通・流通機構の一部にすぎない。

(参考資料)

宮崎市史 宮崎市史年表 宮崎県政80年史  
宮崎県政外史 新風土記叢書日向

## 本町橋

昭和初期、橋橋の250メートル程下流に本町橋は架けられていた。

昭和2年8月11日、台風接近による前日からの豪雨によって大淀川の増水が続いていた。そして同日午前未明、高松橋が崩壊・流失し、その橋脚、橋桁、欄干そして他の流失物は濁流とともに橋橋（4代目）につきつぎと激突していった。正午前、ついに橋橋も大音響とともに土煙を立てて濁流の中に崩壊した。さらに下流の赤江橋も崩壊・流失し、この日わずか一日で鉄橋（大正12年完成）を除いた大淀川をまたぐ橋は3橋ともに消失したのである。

わずか数時間で3つの橋が失われたわけだが、当時の宮崎県古宇田知事の対応は極めて早かった。3橋流失後、古宇田知事は直ちに鉄道当局と交渉し、3日後の8月14日には鉄橋上に一時的危険防止の仮工事を施して【鉄橋上の一般の通行】と【宮崎・大淀間の汽車の無賃運送】を開始している。さらに宮崎市は高松通と上野町筋の大淀川には【渡し舟】を就航させたのである。

3橋流失後の古宇田知事の応急処置としては極めて早急な対応であった。これは彼が元警察部長であり、翌月の県会議員選挙において警察力を動員して不正事件を起こした（古宇田事件、知事は翌3年1月免官となる）ように、【警察に顔が効いた】ためであると考えられる。ともかく暫定的処置としての仮橋架設が行われるのだが、何故かその場所は流失した橋橋の跡ではなく、本町通と太田町を結ぶ（現在のホテルプラザ西側道路の延長上にあたる）位置であった。この本町通とは県庁東側から大淀に向かう道で、現在もこの通りを北進した宮崎県合同庁舎前の三角形の緑地帯には本町通線の標識がある。

宮崎県知事、宮崎市長の出動要請により、熊本工兵隊から2個中隊240名が派遣され、本町通の延長線上に仮橋架設工事が開始されたのは橋橋流失からわずか27日後の9月7日のことであった。そして、何と2週間後の9月20日には架橋作業は終了し、工兵隊は熊本に帰隊したのである。

9月29日には渡行式が行われ、一般の通行も許可されるとともに、大淀・宮崎間の鉄橋通行と無賃乗車は廃止されている。この仮橋が正式に完成したのは10月28日のことであるが、それでも作業開始からわずかに52日目のことであった。

この橋は熊本工兵隊によって架橋されたために、当初【工兵橋】と呼ばれていたが、やがて（本町通の延長線上であったために）【本町橋】と呼ばれるようになったと言われている。

さてこの本町橋に遅れること約1ヶ月、10月13日には4代目橋橋跡（正確には現在の橋橋よりも20メートル程下流の公衆トイレのあたり）に仮橋架設工事が開始され、12月1日には仮橋橋（5代目）が完成するのである。

四代目橋橋が流失したとはいえ、橋橋の仮橋架設工事よりも、何故早くそれも突然に本町通延長線上に新たな橋が架設されたのだろうか。

橋橋の永久橋（コンクリート橋のこと）化はすでに明治43年には県議会に提案されており、4代目橋橋流失後の「新たな橋橋は永久橋化」されるべき状況にあった。しかし、突然の（四代目）橋橋流失であり、その永久橋架設準備の間の仮橋架設もまた必要であったと考えられる。

短期間で完工したとはいえ、本町橋が【橋橋の仮橋】として架設されたにしては【立派すぎる橋】であり、加えて本町橋完成の1ヶ月後にはまさに仮橋としての5代目橋橋が架設されているのである。結果的には14年間流失しなかったほど丈夫な本町橋は何故橋通ではなく本町通の延長線上に架けられたのであろうか。

宮崎市郡医師会史には、本町橋架設当時の医師会長であった【綾部千平】について長男・勲（いさお）氏の談話として「橋橋が福島（邦成）による如く、本町橋を架けた功労者が綾部千平であるのも面白い。上原元帥（当時工兵監）と親交があり、この上原と交渉し、熊本の工兵隊二個中隊を宮崎に派遣し、架橋演習の目的で、橋橋の流失の空間をねらって架橋されたものと聞く。これは自宅の前を宮崎の本通りにしたかったのか、交通緩和の目的の何れかであろう・・・（途中一部略）・・・名誉欲、権勢欲及びこれに伴う力、良き人生を送った人だと感じます。」と、本町橋架橋の裏話（真実？）が記されている。

綾部医師は元赤江橋架橋組合長でもあり、橋が町作りに果たす役割を知っており、本町橋架設により自宅前を宮崎の本通りとして栄えることを望んだ可能性は高い。しかし6代目橋橋が永久橋となるとそれにつながる橋通が急速に発展していくために綾部医師の望んだ本町通の発展は夢と消えたのである。

昭和6年仮橋の橋橋が破損し撤去されると本町橋はその代わりに【永久橋架設間の仮橋】として大淀川両岸を結ぶ役目を担うに甘んじていくのである。そして昭和9年11月1日に本町橋は一部が破損し復旧されるものの、昭和16年10月1日に台風で流失すると2度と架橋されることは無かったのである。

戦前に大淀川に架橋された橋橋、高松橋、赤江橋そして本町橋の4橋の内、流失後に一度も再架橋され無かったのは本町橋だけである。そして4橋の内この本町橋と赤江橋の場所には橋は現存しておらず、両橋があったことを知る人も現在では少ない。

4橋の橋脚は一部分ではあるが水中に現存している。とくに本町橋の橋脚は直径が20センチ近いものもあり、また岩礁と橋脚とをコンクリートで補強するなど架橋組合や県が作った田の三橋に比べ、はるかに頑丈に作られている。

宮崎県や県民に関係ない熊本工兵隊によって架橋されたためであろうか、本町橋には他の3橋のような架橋碑は残されていない、いやおそらくは作られなかつたのであろう。ただ架橋中に大淀川に落ちて死んだ2人の工兵と橋の完成後橋からのバス転落事故で死亡した鐘紡工場長を弔う小さな鎮魂碑がホテルプラザ前の橋公園にひっそりと建つてはいるが、その碑に気づき立ち止まる人もいらない。

(注) 昭和3年5月、碑は錦町弘徳寺境内に建立された。

本町橋の橋脚の一部は現在も川の中に残存しており、干潮時には10数本が川面に顔を出している。しかし名前すら人々に忘れ去られた本町橋の橋脚に気づく人は少ない。

#### (参考資料)

宮崎市史	宮崎市史年表	宮崎県政80年史
宮崎県政外史	宮崎市郡医師会史	日向郷土事典
宮崎県50年史	宮崎県の100年	写真集宮崎100年
宮崎県警察史	宮崎碑文志	

## 流失した17本の橋

昭和2年8月11日、高松橋、橘橋、赤江橋が流失した。

宮崎市史年表にはこのように書いてあるが、当時は台風などによる大水は大淀川を氾濫させ、そこに架かる橋をいとも簡単に流失させていたのである。

現在からは想像もつかないのだが、この昭和2年当時大淀川に架かる橋は橘橋、高松橋そして赤江橋の3橋しか無く（本町橋の項参照）、この年の8月11日わずか数時間の内に大淀川をまたぐ橋は鉄橋を除いて全て流失したのである。

明治13年に福島邦成によって初代橘橋が架橋されてから50年近くたった昭和2年でさえ、大淀川には3本の橋しかなかったのである。しかも橘橋以外に大淀川に架橋されたのは大正12年の赤江橋まで初代橘橋架橋後、実に44年の歳月を要したのである。

人間と大淀川との戦いは「治水」とともに「架橋」であったと言っても過言ではないが、大淀川における架橋とはまさしく川と人間の戦いであり、永久橋（コンクリート橋）以外の大淀川に架橋された橋、つまり木橋は全て大淀川という自然の力に負けたのである。実にその数は橘橋、赤江橋、高松橋、本町橋、小戸之橋の5橋において計17本に及んだのである。

流失した橋は橘橋が昭和5年の5代目、赤江橋が昭和11年の4代目、本町橋が昭和16年の初代、小戸之橋が昭和29年の2代目そして高松橋が昭和42年の5代目までに架橋された全ての（木製）橋は流失したのである。その後、橘橋、高松橋、小戸之橋は永久橋となったが、赤江橋そして本町橋の2橋だけは再架橋されることなく、大淀川から永遠にその姿を消したのである。

現在でこそ橋と言えばコンクリート製のものしか見ることもないが、宮崎市民は30年足らず前までは木橋が大淀川の濁流に流される状況に出会っていたのである。ちなみに永久橋化された

のは橋橋が昭和7年、宮崎大橋が昭和32年、小戸之橋が昭和38年、大淀大橋が昭和46年そして高松橋が昭和59年と橋橋を除けば昭和30年代まで大淀川にコンクリート製の橋は無かつたのである。

橋橋、本町橋は別項で詳しく述べるので本項では省略する。

赤江橋は日豊本線の鉄橋から100メートルほど下流（以前は旅館待月があった）から対岸の城ヶ崎（以前は宝泉寺前の道路に続いていた）に架けられていた橋で、一般からの公募による架橋資金によって大正12年12月26日に架橋された。赤江橋架橋組合（組合長・綾部千平）によって渡り賃（大人2銭、子供1銭）を取ったので【賃取り橋】と呼ばれたが、昭和5年3月に架橋組合は宮崎市に赤江橋の寄付を申し出ており、その後は無賃橋となったと思われる。

明治13年福島邦成が私財をもって独力架橋した初代橋橋は渡り賃を取ったので「退庵（邦成のこと）は大きなハシ（橋）で飯を食い」

と皮肉られたこともあり、現代でもこの川柳を用いて邦成を評価する人がいる。しかし邦成が私財にて架橋した初代橋橋から44年後それも一般からの公募資金によって架橋された赤江橋でさえ、その維持・修理のために賃取橋であった事実を邦成の功績評価の引き合いに出した人は残念ながらいない。

昭和2年、大淀川の増水によって流失した初代赤江橋は翌年再架橋されたが、昭和5年、8年と流失した。そして昭和9年に架橋された4代目赤江橋は前日からの暴風雨によって昭和11年7月23日に流失したのを最後に二度と架橋されることはなかったのである。

なお高松橋と本町橋（一部）もこの日流失したが、昭和7年に完成していたコンクリート製の6代目橋橋だけは無事であった。

橋公園から吾妻町に向かって鉄橋から50メートル程行くと民家の間に大淀川に抜ける幅5メートル程の道があるが、これこそ赤江橋に続いていた道であり今もそこには赤江橋架橋碑が残されている。さらに堤防に上ると（引き潮の時だけであるが）この道の対岸への延長上大淀川の中岸付近には赤江橋の橋脚が10数本残っているのが確認できる。

初代赤江橋と同じ昭和2年に流失した初代高松橋は現在の橋の位置よりも約50メートル程上流に赤江橋に遅れること2年、大正14年4月3日にやはり架橋組合によって賃取橋として架橋された。この初代高松橋は昭和2年に流失したが、再架橋された年月日は記録に残されてはいない。

2代目高松橋が再架橋された年月の記録を見出せなかつたが、俳人・山頭火日記の中に高松橋のことが記されている。昭和5年9月28日、生目神社に参拝した後「帰路は近道を教へられて高松橋（渡り賃3銭）を渡り、景清公御廟といふのへ参拝する・・・」と書かれており、昭和5年には2代目高松橋が完成し、依然として賃取橋であったことも記されている。なおこの2代目高松橋は昭和6年に宮崎市に移管された。

2代目高松橋は昭和11年4代目赤江橋、本町橋とともに流失し、再三再四と架橋されるものの昭和25年、29年に流失するに至った。5代目高松橋は昭和31年に架橋されたが老朽化とともに一部破損などが加わり、やがて通行禁止となり橋路は草が生い茂げ、欄干は朽ち果てるという状態に放置されたままであった。そしてついに昭和42年7月3日大音響とともに崩壊したのである。しかし昭和32年に500メートル程上流に架橋された宮崎大橋のために高松橋は必要とされず、再架橋の計画さえ生まれなかつたが、大塚台、生目台団地の造成とともに高松橋は

再びその必要性を迫られ、昭和59年に永久橋として復活し現在に至っている。

高松橋記念碑は高松橋付近ではなく鶴島の小戸神社横の下水流児童公園の片隅に立っている。石材の関係であろうが、石の磨耗が強く碑文も簡単には読めない状態である。

話は元に戻るが、昭和2年に橘橋、赤江橋、高松橋の3橋が流失したが、これら既存の橋の再架橋工事よりもいち早く架橋されたのが後の本町橋である。だがこの本町橋も昭和16年10月1日に流失したため、昭和22年に元の位置より1キロメートル程下流に本町橋再架橋工事が開始されたが（起工時には本町橋の復旧工事とされていた）、昭和23年2月28日の完成時には小戸之橋と名付けられたのである。のために本町橋は大淀川に架けられた橋としては一度も再架橋されなかった唯一の橋となったのである。また小戸之橋は昭和24年、29年の2回流失し、昭和38年に永久橋となり現在に至っている。

本町通の延長線上にない橋が本町橋と名付けられなかったのは当然であり、それ以上に「小戸の渡り」にほぼ一致した位置に架けられた橋を「小戸之橋」と名付けたのは意味深いものがある。また江戸時代以前は小戸之橋付近の大淀川は北側が岩ヶ瀬水神神社付近までそして南側は八坂神社付近まで大淀川が広がっており、現在よりも約100メートル川幅が広かったことがわかっている。

人間と大淀川の戦いは木橋が大淀川から無くなった昭和42年の高松橋崩壊以後繰り返されてはいないが、その30年足らずなど大淀川500年の歴史からみればほんの一時に過ぎないのである。

(参考資料)

宮崎市史 宮崎市史年表 宮崎県政80年史  
宮崎県50年史 宮崎県政外史 山頭火日記



## **報道にみる橋の日**





## 回遡歴迎えた「めがね橋」

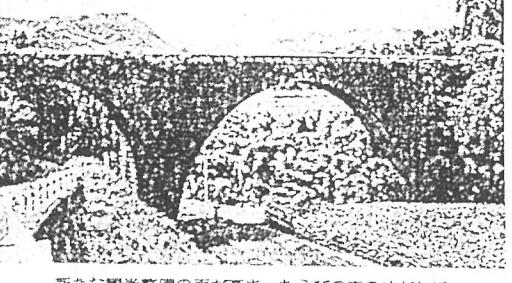
61. 8. 10  
あらす

「めがね橋」新潟市、利根川の河原に架かる木造橋



新潟市は大正時代から昭和初期にかけて、多くの木造橋が建設された。その中で、「めがね橋」として知られるこの橋は、1923年に完成した。橋の名前は、その特徴的な弓形の構造から来ている。現在は、この橋を含む利根川の遊歩道が整備され、多くの観光客が訪れる人気スポットとなっている。

## えびの市= 観光ルートへ 組み入れの声も



新たな観光整備の声が高まっているえびの市のめがね橋

61. 7. 25  
あらす



「めがね橋」新潟市、利根川の河原に架かる木造橋

新潟市は大正時代から昭和初期にかけて、多くの木造橋が建設された。その中で、「めがね橋」として知られるこの橋は、1923年に完成した。橋の名前は、その特徴的な弓形の構造から来ている。現在は、この橋を含む利根川の遊歩道が整備され、多くの観光客が訪れる人気スポットとなっている。

## 橋の日の心

新潟市は大正時代から昭和初期にかけて、多くの木造橋が建設された。その中で、「めがね橋」として知られるこの橋は、1923年に完成した。橋の名前は、その特徴的な弓形の構造から来ている。現在は、この橋を含む利根川の遊歩道が整備され、多くの観光客が訪れる人気スポットとなっている。



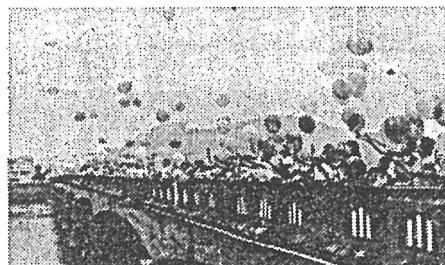
61. 7. 25  
あらす

# コイ放流 風船放し…

毎日  
「橋の日」大いにアピール 63.8.6



元気いっぱいマーチを演奏する  
江南保育園児



カラフルな風船をあげる「橋の日」  
参加者たち（延岡で）

## 宮崎、延岡 チビっ子演奏も

「橋の日」（八月四日）を  
提唱している宮崎、延岡両市  
の民間団体が四日、宮崎市の  
橋橋（天瀬川）と延岡市の安  
賀多橋（大瀬川）で橋供養や  
河川敷の清掃などのいろいろな  
行事をしてアピール…。  
これは、宮崎市 東二

の余井賀、湯浅利善さんによれば  
が六十一年初めに提唱した。  
日暮生活や交際の大変な役割  
を担っている橋や河川と市民  
が触れ合ふことで、新しい古  
里づくらや都市景観の創造見  
えてくる。

ついで運動の一いつじとも  
昨年に続いて二回目の宮崎  
市は宮崎橋の日イベント（宮  
崎橋の日実行委員会主催）と  
して午前九時、市民約三百人  
が橋橋下の大瀬川河川敷に集  
めて、県が進めていた新ひむか  
合。参加者を代表して新ひむか

かつての運動祭の模範  
一郎会長が「川と橋は古くから  
私たちの生活文化に密接  
なかかわりを持ってきました。  
橋にはいろいろな物語が  
あります。古里の橋を見直し  
橋の日を全国にアピールして  
いこう」とあいさつした。  
続いて岡山義人・宮崎土木  
事務所技術次長が橋の役割を  
説明。小舟小六年の河野将哉  
君（こと同小五年の城崎美さ  
ん）が「川は私たちの生活  
にとって大切なものです。橋  
があるので川を渡ることができます」と作文を朗説した。

特別参加の江南保育園児四  
十五人と音大吹奏楽部が「双  
葉の旗の旗のもとに」などを  
演奏して花を添えた。このあ  
と同川に稚哥一千匹を放流、  
全員でビニール袋を手に河川  
敷を清掃して歩き、橋橋の上  
から風船四十個を放し、橋の  
日をPRした。

江南市では午前六時から  
「延岡」実行委員会が

金賀が竹ボウキやビニール  
袋を手に橋の清掃などをしました。  
あとラジオ体操。最後に約四  
百個の風船を放したが、この  
時、同市内のローターアクト  
がカッパにふんして同橋下の大瀬川に現れ、水中からあい  
さつをする楽しいパフォーマンスもあった。



日本西ス 8月2日

「橋の日」記念行事

# 郷土の橋橋にちなみ

自然豊かな街つくろう



丁寧に橋の木を植える宮崎小の児童たち

橋の日（八月四日）の記念行事の一環として、宮崎市旭一一町の宮崎小学校（緒方司校長、五百六十人）で、橋（たばな）の木の植栽があった。宮崎

宮崎小児童

## 校庭に橋の木植栽

2.8.27 西日本

橋の日実行委員会（代表・

塙見一郎宮崎商工会議所会頭）の主催で、同小の児童

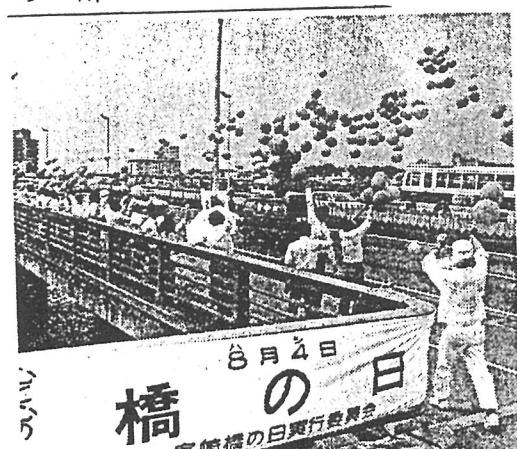
や会員ら約十五人が参加。児童らは一年生の橋の木四

本を校庭に植え、「早く大きくなつて」と汗をかきながら水をかけていた。

橋の日は、郷土のシンボ

## 橋橋がすつきり

### 「橋の日」記念し清掃作業



メッセージを添えた風船を飛ばす参加者たち

とされている四日、宮崎市では、宮崎橋の日実行委員会（塙見一郎会長）が市内の大淀川に架かる、全国に先駆けて延岡市で始まつ

る橋橋の清掃作業をした。

もう一度よるさとの橋や河川

を見直すと昭和六十年、

全国に先駆けて延岡市で始まつ

ル的な存在である河川と橋に親しみじよじ、自然環境豊かな街づくりを目指すため四年前に制定。毎年、さまざまなイベントを通して広く愛郷心の大切さなどを訴えてきた。

実行委員会によると、今年は宮崎を代表する橋橋にちなんで橋の木の植栽を計画。明治時代の「時期、橋本を校庭に植え」「早く大きくなつて」と汗をかきながら水をかけていた。ある宮崎小学校に植えられ

た。宮崎市は六十一年から今四年間、建設業者も同実行委員会約二十人が参加。ビニール袋を片手に、橋橋を坂きながら大きな吸い殻、ガラス片などを拾った。

この後、橋の供養と感謝の気持ちを込め、橋橋の名を記した石碑に献花。メッセージを添えた風船四百個を飛ばし、「橋の日」を郷土のイベントとして広めいくことを確認した。

同実行委員会は橋の日の行事として宮崎市の宮交シティで橋橋の写真展を開催しているほか、橋橋の名前にちなみ、宮崎小（旧橋少）にタチバナの木を植樹す

る予定。



## 春秋

八月七日は「卯の日」、八月八日は「ひけの日」、「そろばんの日」、八月十九日は「バイクの日」。

いろいろ「ふるわせや字の形を見立てる」のが流行であります。宮崎市の湯浅利摩さんは八月四日を「橋の日」にしようと提唱して六年になる。子供のころ、夏休みは川でよく遊んだ。きれいな水、楽しかった水泳や魚捕り。宝のような思い出を未来につなぐ心の橋をかけたい」とだった。一人で始めた▼川と橋が好きで橋によつた会社に転職した。宮崎県には美しい川や橋が多い。独りぼっちの運動は次第に人々の共感を呼び、**「ひじほ（新ひじか）ことり県民運動」**の環境となり宮崎市の橋橋延岡市の安賀多橋、それに日之影町の青雲橋で催されました。

がある稚魚の放流、川の消樽、橋を歌んだ短歌わ俳句の発表会、湯浅さんが作詞した「橋の日の歌」も発表される。「夏の日差しがまぶしくて

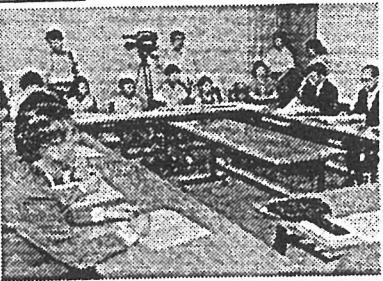
きらきら光る川」とある歌は仲間の斎藤正浩さん宮崎少年少女合唱団などが歌う▼「橋の日」制定に向けて運動は全国的に盛り上がってきた。これからは急がずゆっくり全国に運動の輪を広げていきたいという。来年は九州各地に動きかけてはどうか。九州には由緒ある橋がたくさんある

宮崎市などで、小学生や学識経験者、郷土史家などを招いて、宮崎市などで設けている八月四日の「橋の日」を前に、宮崎橋の日実行委員会（堀見一郎代表）は十五日、宮崎市内でも、小学生や学識経験者、郷土史家などを招いて、橋を通じて、豊かな心を育むことを目として開いた。

## 橋を通して 豊かな心を

宮崎で座談会

% 旗



活発な意見が出た座談会

橋が架ければ、人が渡る代金として当時アメ玉が貰まる四厘が必要だ。十三年に初めて地元の医者によって橋が架けられ、橋が架かれれば、橋周辺の清掃奉仕や大淀川への魚の放流、橋の日の新聞発行などが行われる。宮崎市では八月四日が年に一度の開催日です。  
同市立生田台東小四年の児童からは、「八月四日にカミを拾つたら、ゴミを出す橋祭りがあれば」「車やモノレールが通れる『段構造の橋』が出来れば」などの意見が出された。県内で橋の日を設けているのは、同市のほか、延岡市、日之影町で、今年から都城市も加わる。

橋の日は、八月四日の八、四にもみなみ川との、ふれあいを感じて、郷土愛や河川愛護の心を持つてもらおうと昭和六十二年に設けられ、今年で六回目。

堀見一郎同実行委員会の副会長が「橋を通して、生

った」と説明した。

豊かな心を育む

むことが出来る」とあいさつ。郷土史家の野口逸三郎さんが、同市の大淀川に架かる橋権について、「今の

橋は七代目。明治三十一年に初めて架けられた。橋の日実行委員会は青井正彰・同実行委員会副会長が「橋を通して、生

った」などと説明した。

春秋がある稚魚の放流、川の消樽、橋を歌んだ短歌わ俳句の発表会、湯浅さんが作詞した「橋の日の歌」も発表される。夏の日差しがまぶしくてきらきら光る川と、橋の日を設けた八月四日を抬つたり、ゴミを出す橋祭りがあれば」「車やモノレールが通れる『段構造の橋』が出来れば」などの意見が出された。県内で橋の日を設けているのは、同市のほか、延岡市、日之影町で、今年から都城市も加わる。

## 橋の日シンボルマーク募集

「橋の日」(八月四日)への関心高揚、心の懸け橋を全国に広めよう、と宮崎橋の日実行委員会がシンボルマークを募っている。

テーマは、橋の恩恵への感謝、河川浄化や道路整備

夢の懸け橋。作品の規格は、B4判(三六・四六)×二五・七センチの画用紙かケント紙を適用、三色以内。

賞格は県内在住者。最優秀一人には賞状と賞金五万円、優秀、佳作には賞状と

記念品を贈る。応募は五月二十九日(当日消印有効)まで、同市役所前でミニコンサートを開催する。開催場所は北郷、北方町が加わる予定。

局下880、宮崎市江平東一〇八九、四〇一、四〇九

85(3) 60000。

橋の日は昭和六十一年、延岡市でスタート。これまで同市と宮崎、都城市、日之影町で、コンサートや河川敷清掃などをしている。

今年はさらに日南、日向市、北郷、北方町が加わる予定。

までに、同実行委員会事務

局下880、宮崎市江平東

一〇八九、四〇一、四〇九

85(3) 60000。

橋の日は昭和六十一年、

延岡市でスタート。これま

で同市と宮崎、都城市、日

之影町で、コンサートや河

川敷清掃などをしている。

今年はさらに日南、日向市、

北郷、北方町が加わる予定。

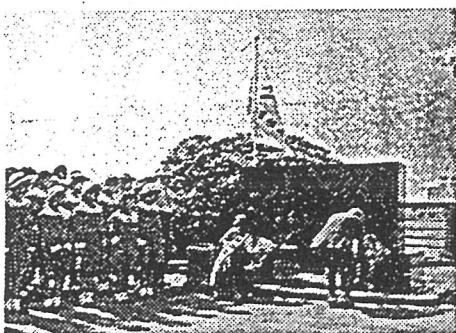
## 橋の恩恵に感謝し 献花やコンサート

### 「橋の日」でイベント

「橋の日」(八月四日)は、宮崎市(会長: 境見一郎・宮崎橋の日実行委員会会頭)は4日、橋の日(いのなみ音楽)に合わせて、市役所前でミニコンサートを開催する。「橋の日」(八月四日)イベントが四日、宮崎市橋の北詰めであった。約三百人が参加、橋への献花、コンサートなどで川や橋の大切さを訴えた。

境見一郎実行委員会会長は、「橋は歴史と文化をつなぐ」と語った。昨年は北方町、今年は日向市でも開催するつもりだった。

境内には大小約八千七百



橋橋に献花する参加者

いた。  
た」と喜んでいた。  
いだ。  
た」などに取り組んでいた。  
真。橋太鼓隊などに取り組んでいた。  
木綿(はまゆ)

橋に感謝の気持ちを表す「橋の日」(八月四日)、宮崎市(会長: 境見一郎・宮崎橋の日実行委員会会頭)は4日、橋の日(いのなみ音楽)に合わせて、市役所前でミニコンサートを開催する。「橋の日」(八月四日)イベントが四日、宮崎市橋の北詰めであった。約三百人が参加、橋への献花、コンサートなどで川や橋の大切さを訴えた。

境見一郎実行委員会会長は、「橋は歴史と文化をつなぐ」と語った。昨年は北方町、今年は日向市でも開催するつもりだった。

境内には大小約八千七百

の橋があり、宮崎市だけで約七百橋。「橋の日」は歴史や文化を生んだ橋を地域の発展につなげようと延岡

市が昭和六十一年に始めた。翌年から宮崎市と日向市が昭和六十一年に始めた。

境内には大小約八千七百

橋に感謝し、  
宮崎橋で献花や清掃

された。

境内では、同市小松台東

橋太鼓隊、日向太鼓隊

が清らかな歌声や舞はな

りの歌を披露した。コイ

の放流、清掃などが行わ

れた。

# 橋の日

各地で催し

本日

ハ西田町の「橋の日」(橋) 6回。山崎市や高岡市など、県内各地で開催された。

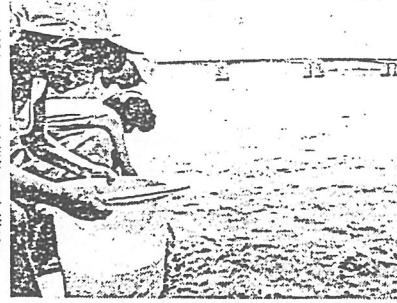
ロイ放流や太鼓演奏

昭和六十一年、延岡市で三歳年々参加者が増へ、「橋の日」を提唱。眞因は「わが子が順調に育っていく運動を広げる漫遊活動」といふ。これが九州、全

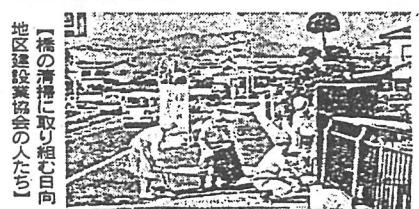
〇・高崎市では、橋橋の(西)は高崎市小松台第二十回、そして世界に橋の日をたどり、その後所前の公園で行われる。

## 掃き清め、はだしで渡る

延岡市の  
安賀多橋



〇・延岡市でも、大隈川に架かる安賀多橋で、橋の上、北川の田口部に位置する「橋の日」(橋)の開催が決まり、橋の日行事の「豊饒クリーン・ワオーキング」。延岡橋の「橋の日」は毎年で最も多くの参加者があり、今年で六回目となる。豊饒クリーン・ワオーキングの開催は、田口地区建設業協会の主催で、今年初めての実現。



橋の日はまだ早い朝クローンの登場者たち

た。

前八時から、会員約百人が「美々津大橋」「だいせい橋」などで清掃を開始。路面や排水溝の清掃、橋脚辺の樹木剪定した橋板を運び上げた。

同橋の川越廿七・田口支部長は、来年以降も継続安全で美しい橋の維持に努めた」と語っていた。



# 大淀川と橋橋守ろう

## 「橋の日」イベントで訴え

令和7.8.5 宮日



コイの放流や河川敷清掃で橋への愛護精神を養った  
「みやざき橋の日イベント」

「橋の日」の四日、第九回みやざき橋の日イベントが宮崎市の橋橋周辺で開かれた。宮崎女子高の生徒やボーイ・ガールスカウト、ボート、アドバルーンを掲げ、市民橋りょう工事関係者ら約四百人が参加、宮崎のシンボルである大淀川と橋橋の愛護精神を養った。

橋橋下の河川敷で、大塚謹精神を養った。

中吹奏楽部が息の合った演奏を披露した後、大淀川にコイの稚魚二十匹（約千匹）を放流。「早く大きくなれ」と声を掛けた。このほか河川敷と橋公園北側にある建設記念石碑に手を一齊に清掃。参加者が手

にしたビニール袋は、空き缶や紙くず、花火の燃えかすなどでたまらいっぱいになっていた。  
実行委員会の徳末道事務局長は「橋は単に人や自動車の通る物理的なだけのものではない。「心の懸け橋」として、よりよい宮崎のまわりにならの拠点になれば」と話していた。

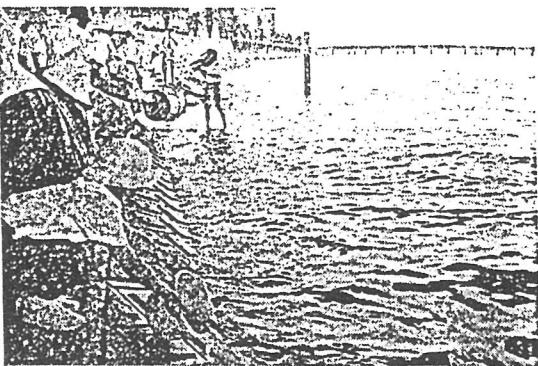
◆橋に感謝し催し  
17.8.5  
「橋の日」の4日、宮崎市・橋橋周辺で、みやざき橋の日実行委員会（塙見一郎会長）が橋へ感謝する記念行事をした。建設会社員や高校生、ボーイスカウト、ガールスカウトら約400人が参加したもとに、ある橋名板に花を挿げた。さらに、橋や河川敷でごみ拾いをし、コイの稚魚約1000匹を大淀川に放流した。

延岡市の安賀多橋一帯でも、第10回延岡・橋の日の催しがあった。約300人が市民清掃やラジオ体操をし、最後は裸足で橋を往復するクリーンウォーキングをした。

## 稚魚放流や架橋「還暦」

8/5  
土  
午後  
H8

宮崎、延岡市で橋の日祝う



「橋の日」にちなんで、コイの稚魚を放流する参加者たち

【橋の日】の四日、宮崎市で橋の架橋（大淀川）周辺で同様の活動を始めるなど記念イベントがあり、延岡市では、架橋六十年の「還暦」市の大淀多橋（大淀川）では、架橋六十年の「還暦」は、架橋六十年の「還暦」。今年で十年。鹿児島県でも同様の活動を始めるなど記念イベントがあり、「橋の日」は徐々に広がりを見せている。

宮崎市では、大淀川河口に近い橋の周辺でイベントがあり、宮崎女子高吹奏楽部が市役所前で演奏を披露。橋下では子供たちがコイの稚魚約二万匹を大淀川に放流し、同高校生や県

農業開発青年隊の若者たちが河川敷でごみ拾いをしました。O...道脇、河川敷でごみ拾いをした。安賀多橋は、大淀川河岸の同市中央通り安賀多町を結び、六十年前の昭和十一年に架橋された。知人頼つてよく延岡市を訪れた野口雨情が「安賀多大橋流しづらぬ流し」を頼りが邊へ見せている。

同日朝、実行委のメンバーが橋を清掃し、親柱に「...道脇、河川敷でごみ拾いをした。安賀多橋は、大淀川河岸の同市中央通り安賀多町を結び、六十年前の昭和十一年に架橋された。知人頼つてよく延岡市を訪れた野口雨情が「安賀多大橋流しづらぬ流し」を頼りが邊へ見せている。」と詠んでいる。

8月4日を「橋の日」と定めている「宮崎橋の日」大行

委員会（会長・堀見一郎）が同日崎商工会議所会頭が同日宮崎市の橋橋会（ミニコ）ンサートやコイの放流などを記念イベントとした。

イベントは、川や橋とのふれあいを通じて郷土愛や河川愛護の心を育てようと

の狙いで、今年で10回目。この日は県や市、橋通り商店街などの関係者やボランティア、スカウト、ガールスカウト、スカウトやコイの放流などを実行委員会（会長・堀見一郎）が同日崎商工会議所会頭が同日宮崎市の橋橋会（ミニコ）ンサートやコイの放流などを記念イベントとした。

イベントは、川や橋とのふれあいを通じて郷土愛や河川愛護の心を育てようと

【上塙雅風立体書展】パ

ピルス2階ギャラリー午前10時～午後6時。4日まで。入場無料。

【宮崎橋の日10周年記念事業「橋の写真展」】パピルス1階イベントプラザ

午前10時～午後6時。4日まで。入場無料。

「橋の日」のイベントでコイの稚魚を放流する子どもたち

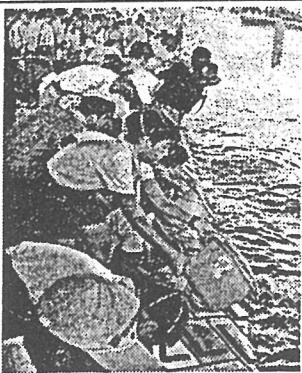


きょうの案内  
8/5  
土  
午後  
H8

【上塙雅風立体書展】パ  
ピルス2階ギャラリー午  
前10時～午後6時。4日ま  
で。入場無料。

【宮崎橋の日10周年記念事  
業「橋の写真展」】パ  
ピルス1階イベントプラザ

午前10時～午後6時。4日ま  
で。入場無料。



橋樋下の大淀川にコイの稚魚を放流する「橋の日」参加者たち

## 河川清掃や

## コイの放流

「橋の日」橋橋中心に

「高崎・橋の日の四日、  
宮崎市では橋樋を中心とした  
河川清掃などの催しがあつた。  
生活と密接ながわりを持ち、歴史や文化をはぐく  
んでいた橋を大切にしてい

持つて、「道路をまもる月間」  
で、毎月第一日曜日は「道路  
愛護デー」だが、八月はとくに「道路をまもる月間」  
で、多くの団体が開かれ、約二千人が参加して周辺の道路清

掃などに汗を流した。

今年は、道路の美化に大きな功績があつたとして、

橋樋下の大淀川にコイの稚魚を放流する「橋の日」参加者約

三千人が、橋樋下の大淀川にコイの稚魚一万匹を放流、一帯の河川敷を清掃している。同市では八七年から橋の日実行委員会」を設けて、いろんなイベントを行っている。

この日は、橋樋の北詰めにある同橋由来の記念碑前で、同実行委員会による同橋の日イベントに橋の日実行委員長が「心の懸け橋とも言われなくてはならない橋に感謝し、橋と河川の触れ合いの日にしましよう」とあいさつ。場見会長の参加者の代表六人が橋への献花をした。続いて、同市役所前

の橋の日イベントに

参加した。

川にコイの稚魚一万匹を放流、一帯の河川敷を清掃した。

まだ、この日は、これまでの橋の日イベントに積極的に協力してきた、県測量

委員会

の協力によって、県測量

委員会

の協力によって、県測量

委員会

の協力によって、県測量

委員会

の協力によって、県測量

委員会

の協力によって、県測量

委員会

農業坂本正治さん(八四)、部

城市吉之元町)、串間市、

都井みどりの少年団(桐原

和己代表、三十八人)、延

岡市・大門区(大崎茂代表、

五百人の三人(団体)が

知事表彰を受けた。いずれも長年にわたって地元の道

路清掃を続けている。

その後、参加者は道路の

清掃やベンチのペンキの塗

り直しなどの作業を行っ

た。清掃作業に参加した清

川町加納甲の村角さやかさ

ん(二十六歳)は「道

は意外にきれいで、こんな

ほどまと整わないなかつ

た。これがいいきれいにじ

よつと思った」と話してい

た。

2千人が清掃  
「橋の日」宮崎地区集会

道路を美しくし、守つて

いこう」四日、宮崎市の県

府前広場で「新ひむかづく

り運動・道路愛護デー」宮崎

地区集会」が開かれ、約二

千人が参加して周辺の道路清

掃などに汗を流した。

毎月第一日曜日は「道路  
愛護デー」だが、八月はとくに「道路をまもる月間」  
で、多くの団体が開かれ、約二

千人が参加して周辺の道路清

掃などに汗を流した。

この後、参加者はみ袋を手に、前日の納涼花火大会で込み合をする大淀

川河川敷を清掃。ボーリー・ガールズカウト団員によるコイの稚魚一万匹の放流も

あった。

この後、参加者はみ袋

を手に、前日の納涼花火

大会で込み合をする大淀

川河川敷を清掃。ボーリー・

ガールズカウト団員による

コイの稚魚一万匹の放流も

あった。

### 橋に感謝込め 市民ら清掃奉仕

（内子）

八月四日をひい合わせて、  
「橋の日」を定め、県民の命

の命

の命

の命

の命

の命

の命

の命

## **橋の日活動写真集**

---

# 平成2年（第4回）

- ・橋橋、河川敷清掃
- ・橋の日新聞発行第1号（橋橋物語、座談会開催）
- ・橋への献花
- ・橋の写真展第2回（宮交シティー）
- ・橋の木記念植樹（宮崎小学校 樹高138cm）
- ・風船メッセージ付飛放



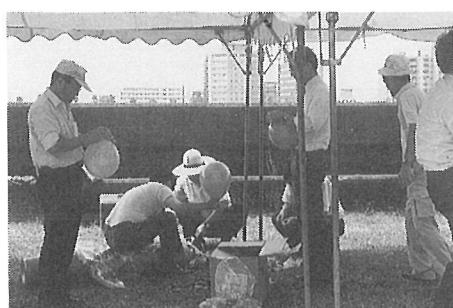
第1回橋の日座談会



橋の日パネル展（於 宮交シティー）



清掃時はいつも暑い・・・。



あと何個かな～。



平成2年度 宮崎橋の日記念 平成2年8月4日 於 宮崎新橋

はいポーズ。

# 平成3年（第5回）

- ・橋橋，河川敷清掃
- ・幼魚放流（うなぎ30キロ）
- ・橋の日新聞発行第2号（橋の日座談会開催）
- ・橋への献花
- ・橋の日の歌発表（宮崎少年少女合唱団） 宮崎市役所前噴水広場
- ・ふれあいコンサート（宮崎少年少女合唱団）



橋の日の歌 作製発表。



初めて市役所の前でイベントを開催  
参加300名でした



テント設営も苦労しましたネ



橋の日を作曲された斎藤先生。



アドバルーンが高く上がります。



川風は気持ちいいな。

# 平成4年（第6回）

- ・橋橋，河川敷清掃
- ・幼魚放流（鯉1000匹）
- ・橋の日新聞発行第3号（橋の日座談会開催）
- ・橋への献花
- ・橋の日の歌テープ贈呈（宮崎市教育長）
- ・風鈴（心さわやか清涼たっぷり）橋実現



風鈴橋！？誕生。



台風の為、2時間後撤収



橋の日の歌 贈呈



親柱そばで音楽会



第2回 橋の日座談会



大きくなって帰って来てね。



よく降りますなあ・・・。

# 平成5年（第7回）

- ・橋の日シンボルマーク公募、発表
- ・「長塚 節 朝まだき」作曲発表
- ・橋橋、河川敷清掃
- ・大淀川をきれいに”魚の放流”
- ・橋の日新聞発行第4号（橋の日座談会開催）
- ・橋への献花
- ・風鈴（心さわやか清涼たっぷり）橋実現

多いに盛り上りました。



全国から305点の応募がありました



シンボルマーク決定



どっちがどっち



はいポーズ



スヌーピーも駆けつけた

# 平成6年（第8回）

- ・橋橋，河川敷清掃
- ・大淀川をきれいに”魚の放流”
- ・橋の日新聞発行第5号（橋の日座談会開催）
- ・日本記念日協会から橋の日制定の認定
- ・橋への献花
- ・橋の日コンサート（宮崎少年少女合唱団・橋太鼓響座・日向太鼓）



たくさんの方々に献花いただきました



朝まだきの作曲完成。斎藤御夫妻



朝まだきの製作発表



日本記念日協会から橋の日認定状届く



収穫 その1

# 平成7年（第9回）

- ・橋橋，河川敷清掃
- ・大淀川をきれいに”魚の放流”
- ・橋の日新聞発行第6号（橋の日座談会開催）
- ・橋への献花
- ・橋の日コンサート（大塚中吹奏楽部）



風のない8月4日



久しぶりの橋下コンサート 結構広いです。

たくさん集まった？



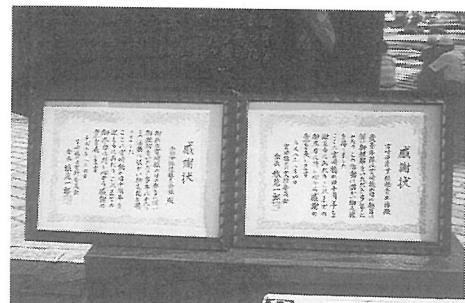
座談会を記録する高城の河野さん

# 平成8年（第10回）

- ・橋の日パネル展（於 宮日会館）
- ・橋橋、河川敷清掃
- ・大淀川をきれいに”二万匹、魚の放流”
- ・橋の日新聞10周年記念号の発行
- ・橋への献花
- ・協力団体への感謝状贈呈
- ・橋の日コンサート（橋太鼓 韶座・宮崎女子高校）



10周年記念式



5団体に感謝状を送る



毎年にぎやかになる橋の日



橋の日パネル展（宮日会館）



暑さを吹き飛ばそう



2万匹にびっくり



## **参考資料**

---

橋の日シンボルマーク

「橋の日」の歌楽譜

朝まだき楽譜

# 橋の日シンボルマーク



川にかかる橋 海にかかる橋  
道路にかかる橋 鉄道にかかる橋  
身のまわりにはいろいろな橋がある、  
目に見える橋、そして心にかかる橋  
そこには人と、人のかかわり  
自然と、人とのかかわり  
いろんな思いをつないで橋はそこにある。

作者 齊藤 正江（神奈川県）

## 橋の日=8月4日 シンボルマーク募集



### 橋の日「シンボルマーク」誕生！



8月4日 橋の日

作者 ▶ 齊藤 正江(神奈川県)

川にかかる橋 海にかかる橋  
道路にかかる橋 鉄道にかかる橋  
身のまわりにはいろいろな橋がある、  
目に見える橋、そして心にかかる橋  
そこには人と、人のかかわり  
自然と、人とのかかわり  
いろんな思いをつないで橋はそこにある。

◎NTT ホワイトテレホンカード 50

# 橋の日の歌

(川・橋・そして人)

湯浅利彦 作詞  
齊藤正浩 作曲

明るくのびのびと ♩ = 112

Soprano M.soprano

Alto

Piano

1. なつのひさしがまーぶーしーくて  
2. まちとまちとをむーすーぶーはし  
3. みなでうたおうはーれーばーれと

キラリキラキラ  
ひとつひとつとの  
そらにとどけよ

ひかーーるかわ  
であーーいばし  
ちのーーはても

*mp*

あいかわこのかわ ゆめのかわ 一  
あのはしこのはし ゆめのはし 一  
あのまちこのまち ゆめのまち 一

やさしいながれ うつくーし  
あさひるよると たゆまーな  
きぼうにみちた ひとびーと

*mf*

*p*

く二二 すみーよ い 一まちを そだてーま す  
くーー すみーよ い 一まちを そだてーま す  
の ふれーあ う 一こころ にじの一 は し

*f*

*mf*

まるであ た たーかい ははーの よう う ー  
まるでた く まーしい ちちーの よし う ー  
まるです ば らーしい かけーは ね ー

*cresc.*

*mf*

*cresc.*

*mp*

*cresc.*

橋の日の歌

(川・橋・そして人)

湯浅利彦 齊藤正浩 作詞  
作曲

一、 夏の日差しが まぶしくて  
キラリキラキラ 光る川  
あの川 この川 夢の川  
やさしい流れ 美しく  
住みよいまちを 育てます  
まるで あたたかい  
母のよう 母のよう

二、 まちとまちとを 結ぶ橋  
人と人との 出会い橋  
あの橋 この橋 夢の橋  
朝昼夜と たゆまなく  
住みよいまちを 育てます  
まるで たくましい  
父のよう 父のよう

三、 皆でうたおう 晴れ晴れと  
空にとどけよ 地の果ても  
あの町この町 夢のまち  
希望に満ちた 人々の  
ふれあう心 虹の橋  
まるで 素晴らしい  
懸け橋ね 懸け橋ね

# 朝まだき

長塚 節作歌  
齊藤正浩 作曲

Adagio quagi Allegretto ♩ = 120

The musical score consists of ten staves of music for voice and piano. The vocal part is in Japanese, with lyrics such as 'あさまだき一す', 'すしくわたりる', 'のうえに', 'りしまひく', 'しおれたりみゆ', 'あさぎりは', 'すしくわたりるは', 'のうえに', and 'のうえに'. The piano part provides harmonic support and includes dynamic markings like *p*, *mp*, *mf*, and *ff*. The score is set in a key signature of one flat, with measures divided by vertical bar lines.

A page of musical notation for a multi-instrument ensemble, featuring ten staves of music with Japanese lyrics written below the notes. The music is in common time and includes various dynamics such as *p*, *mf*, *mp*, *md*, and *f*. The lyrics are written in Japanese hiragana and include:

- しづみたり や
- あさみ あさみ あさみ あさみ あさみ あさみ あさみ あさみ
- かたる
- あさみ あさみ だき
- かたる
- しおのうえに 一 ひきり し ま く く
- ほしおのうえに 二 さり し ま く く
- ひ
- しおみたり も も も も も も も も
- ほしおのうえに

# 実行委員名簿 (順不同)

役 職	名 前	勤 務 先
会 長	塩見 一郎	宮崎商工会議所 会頭
副会長	青井 正彰	シンクタンク宮崎 事務局長
"	横山 忠夫	宮崎みなみ幼稚園 園長
"	徳 末道	宮崎県私学振興会 事務局長
	今井富士夫	宮崎大学工学部助教授
	福島 順一	初代橋橋の架けた福島邦成の曾孫
	立山 徳雄	建設省宮崎工事事務所 事業対策官
	太田原宣治	宮崎県土木部橋梁係長
	湯浅 利彦	橋の日提唱者
	井川 仁	宮崎産業開発
	早崎 光明	志多組
	枝元 宏彰	国土開発コンサルタント
	生野 敏明	ショーボンド建設
	前田 暢俊	毛利前田建築設計事務所
(相談役)	藤本 廣	宮崎大学名誉教授
事務局	鶴羽 浩	ながと印刷宮崎支店

## 橋の日協力団体・企業

### (団体・一般企業)

建設省宮崎工事事務所・宮崎県・宮崎市・宮崎県測量設計業協会・宮崎県産業開発青年隊  
宮崎女子高等学校・日本ボイイスカウト宮崎県連盟、ガールスカウト日本連盟宮崎県支部  
宮崎市橋通東通1丁目商店街振興組合・日本橋梁建設協会九州事務所会・宮崎県建設業協会  
雲海酒造(株)・(株)志多組・(株)国土開発コンサルタント・キリンビール(株)宮崎支店

### (橋梁メーカー)

オリエンタル建設宮崎事務所・昭和コンクリート(株)宮崎出張所  
住友建設(株)宮崎営業所・(株)富士ピーエス宮崎営業所・ピーエス(株)宮崎事務所  
極東工業(株)宮崎営業所・ピーシー橋梁(株)宮崎営業所・コーツ工業(株)宮崎営業所  
川田建設工業(株)宮崎営業所・ショーボンド建設(株)宮崎営業所・清本鐵工(株)  
草野産業(株)九州支店・南日本道路興業(株)・(株)エフエム鉄高欄事業本部・永鋼産業  
(株)九州営業所

## あとがき

沢山の皆さまのお蔭で10周年を迎えることができました。  
日頃よりのご協力ご支援ありがとうございます。

「橋の日」運動もゼロからのスタートでしたが、毎年にぎやかに、そして内容も豊富になっております。

この盛り上がりを宮崎から、更に全国運動へと拡げていくため、今後も引き続きご支援ご協力を  
お願ひいたします。

この記念誌は、私のパソコンで編集・印字を行いました。  
行き届かない点も多々あるかと存じますが、ご愛読の程お願ひいたします。  
また、この記念誌はインターネットホームページでも同じ内容を掲載しています。

今後も、事務局共々よろしくお願ひいたします。

平成9年4月20日

事務局 鶴羽 浩

ホームページ <http://www.m-surf.or.jp/~song/>

宮崎「橋の日」10周年記念誌  
平成9年(1997)6月1日  
発行 宮崎橋の日実行委員会

---

事務局 〒880  
宮崎市潮見町134-1 (ながと印刷内)  
電話 (0985) 32-0050  
FAX (0985) 32-0030  
E-mail song@m-surf.or.jp

